

明治四十年度末現在

償還法區別	事業ノ種類	貸付金額	現在貸付金額	口數
同	肥料購入	一五九、八八五、〇〇〇	六一、四五六、一一八	一一九
同	溜池改修	一四、八一〇、〇〇〇	一六五、五七八	二
同	桑田地買入	一、〇〇〇、〇〇〇	二四五、一一四	〇
同	養蠶	一、五〇〇、〇〇〇	〇	〇
同	開墾及土質改良	三、七〇〇、〇〇〇	二八〇、二五四	一
同	土地區劃改正	四五〇、〇〇〇	九五、〇二二	三
同	桃植付及肥料購入	八五〇、〇〇〇	二〇七、〇八〇	二
同	溜池修繕及肥料購入	二、四〇〇、〇〇〇	一、七二〇、三六二	二
同	開墾及田畑地下	一、五〇〇、〇〇〇	七四〇、三三六	一
同	柑橘栽培	一、六〇〇、〇〇〇	八四八、四七二	二
同	開墾及柑橘植付	二、八〇〇、〇〇〇	一、六五二、六八八	二
同	溜池新設	三、二〇〇、〇〇〇	一、四六二、四三三	三
同	土地開墾	四、七七〇、〇〇〇	二、八五一、六八一	七
同	山林開墾	二、九五〇、〇〇〇	二、二九〇、六九八	四
同	開墾及溜池改修	二、五五〇、〇〇〇	一、六七三、一三五	二
同	果樹栽培	二、五〇〇、〇〇〇	一、四一五、九四六	一

明治四十一年度末現在

償還法區別	事業ノ種類	貸付金額	現在貸付金額	口數
同	山林開墾及畑土質改良及肥料購入	七五〇、〇〇〇	五四九、三一九	一
同	山林開墾及果樹栽培	一、七〇〇、〇〇〇	一、五四三、一三四	二
同	肥料購入、牛購入土質改良	二、六〇〇、〇〇〇	二、〇五六、八八六	三
同	肥料購入、牛購入土質改良	一、〇〇〇、〇〇〇	八九八、三〇八	一
定期償還	肥料購入	六〇〇、〇〇〇	五六〇、二〇八	一
同	溜池改修	一三一、一三〇、〇〇〇	九、〇〇四、〇〇〇	一
同	溜池改修	三三、〇〇〇、〇〇〇	六、〇〇〇、〇〇〇	〇
同	牧牛	一、六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	〇
同	山林開墾	二〇〇、〇〇〇	〇	〇
同	溜池改修及肥料購入	一、二〇〇、〇〇〇	〇	〇
同	植林及開墾	二、〇五〇、〇〇〇	〇	〇
同	肥料購入及土地開墾	一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇、〇〇〇	〇
計		三九二、二九五、〇〇〇	一〇八、三〇六、七七二	一七三

償還法區別	事業ノ種類	貸付金額	現在貸付金額	口數
同	肥料購入	一六〇、七八五、〇〇〇	四九、五七九、三四七	一〇六
同	溜池改修	一四、八一〇、〇〇〇	八〇、七六四	一

年度	償還法區別	事業ノ種類	貸付金額	現在貸付金額	口数
同	年賦償還	桑田地買入	一、〇〇〇、〇〇〇	一五三、九〇八	—
同		養蠶	三、〇〇〇、〇〇〇	一、五〇〇、〇〇〇	—
同		開墾及土質改良	三、七〇〇、〇〇〇	二五八、七三〇	—
同		土地區劃改正	四五〇、〇〇〇	〇	—
同		桃植付及肥料購入	八五〇、〇〇〇	〇	〇
同		溜池修繕及肥料購入	二、四〇〇、〇〇〇	〇	〇
同		開墾及田畑地下	一、五〇〇、〇〇〇	一、三〇一、〇四〇	—
同		柑橘栽培	一、六〇〇、〇〇〇	五七八、四五四	—
同		開墾及柑橘栽培	二、八〇〇、〇〇〇	七六九、〇一二	—
同		溜池新設	四、二〇〇、〇〇〇	一、三七六、五三六	—
同		土地開墾	四、七七〇、〇〇〇	二、二八一、九九八	—
同		山林開墾	二、九五〇、〇〇〇	二、四一八、三〇八	—
同		開墾及溜池改修	二、五五〇、〇〇〇	二、〇六四、一二三	—
同		果樹栽培	二、五〇〇、〇〇〇	一、五〇一、四七九	—
同		山林開墾及畑田二變更	七五〇、〇〇〇	一、二四一、一一四	—
同		土質改良及肥料購入	一、七〇〇、〇〇〇	四八一、四九二	—
同		山林開墾及果樹栽培	二、六〇〇、〇〇〇	九三〇、九七〇	—
同		牧牛	一、〇〇〇、〇〇〇	一、九八二、二六八	—
同		猪	一、〇〇〇、〇〇〇	八三三、三三六	—
同		計			三

新嘗祭供御米粟

新嘗祭供御ノ新穀ハ古代ニハ悠紀主基ノ國ヲトシ定メラレテ悠紀ノ國主基ノ國

年度	償還法區別	事業ノ種類	貸付金額	現在貸付金額	口数
同	定期償還	肥料購入、牛購入土質改良	六〇〇、〇〇〇	五一七、四六二	—
同		開墾及肥料購入	一、〇〇〇、〇〇〇	九六五、四八五	—
同		肥料購入、果樹栽培	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	—
同		肥料購入、畑修繕	三、〇〇〇、〇〇〇	三、〇〇〇、〇〇〇	—
同		土質改良	三、五〇〇、〇〇〇	三、五〇〇、〇〇〇	—
同		耕地整理	八、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇、〇〇〇	—
同		肥料購入	一、三四、六三〇、〇〇〇	八、九一七、〇〇〇	—
同		溜池改修	三、七〇〇、〇〇〇	〇	〇
同		牧牛	一、六〇〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	—
同		山林開墾	二、〇〇〇、〇〇〇	〇	〇
同		溜池改修及肥料購入	一、二〇〇、〇〇〇	〇	〇
同		植林及開墾	二、〇五〇、〇〇〇	〇	〇
同		肥料購入及土地開墾	一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇、〇〇〇	—
同		養猪	六〇〇、〇〇〇	六〇〇、〇〇〇	—
同		計	四二九、二九五、〇〇〇	一一五、三三一、八二五	一五八

リ貢カセ給ヒシヲ近ク明治五年以來ハ大藏省ヨリ納メ十一年以來ハ東京府ヨリシ
 十四年以來ハ新宿ナル植物御苑ニテ作ラシメ給ヒシ所ヲ以テ之ニ充テサセラレタ
 リト云然ルニ明治十五年十二月岩倉贈太政大臣在世ノ時 此御祭典ハ皇孫尊降臨ノ
 始メヨリ歷朝繼續シテ變易アラセラル、コトナキ大典ニシテ年々新嘗祭ニ於テ報
 賽ノ儀ヲ行ハセ給ヒ農事ヲ勵マシメ給フ重祀ナレハ國民タルモノ 聖意ヲ奉體シ
 毎年新嘗祭ニ方リ各地方有志農民ヨリ新穀ヲ獻納セシムルコトヲ地方官ニ示達セ
 ラレシコトアリ然ルニ間モナク公薨去シ勤王愛民ノ遺志空カラントセシカ二十五
 年四月ニ至リ時ノ東京府知事富田鎮之助ヲ始メ各府縣知事四十六名ヨリ新嘗祭ノ
 供御獻納ノ義ヲ願出願チ御嘉納アラセラレ各府縣ノ有志者ヨリ各精米一升精粟五
 合宛ヲ獻納スルコト、ナリシカハ新宿ノ御苑ニテ作ラセ給フ米粟ニ合セテ供御ニ
 奉ラル、コト、ナレリ是洵ニ神慮ニ適フ所以ナルヘク國民ノ榮譽亦之ニ過クルモ
 ノナシ而シテ本縣ニ於テハ毎年精米一升精粟五合ヲ縣廳ニ提出セシメ之ヲ獻納シ
 來リシカ三十年ニ至リ各郡輪番ヲ以テ獻納スルコト、ナセリ

重要農作物
 一重要農作物ノ概要

縣下ニ於ケル農作物中其重要ナルモノハ米麥甘藷蘿蔔甘蔗等トス明治三十七年ノ
 統計ニ依レハ米ハ壹千貳百九拾貳萬七千八百貳拾參圓麥ハ四百七拾萬四千七百九
 拾壹圓甘藷ハ參拾九萬四千六百八拾壹圓蘿蔔ハ參百六萬五千參拾四圓甘蔗ハ參拾
 參萬六千貳百七拾五圓ニシテ他ハ皆價格拾五萬圓以內トス此外棉作ハ近時甚シク
 衰頽セルモ往時ハ頗ル旺盛ヲ極メタルヲ以テ此數種ニ就キ更ニ明治十一年以來毎
 五ヶ年ノ收穫高ヲ擧クレハ左ノ如シ但蘿蔔ハ從來正確ナル統計ヲ缺ヲ以テ茲ニ之
 ヲ省略ス

年次	米	糯米	大麥	小麥	裸麥	甘蔗	甘藷	實棉
十一年	三,七六六,〇〇〇	三,三二六,〇〇〇	三,八四〇,〇〇〇	三,三〇〇,〇〇〇	一,七〇七,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	一,八二六,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
十一年	四,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	七,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇

前表ニ據レハ梗米糯米及甘藷ハ益々其產額ヲ増加シ大麥ハ漸次減少シテ小麥裸麥

共ニ増加シ甘蔗ト實棉トハ逐年其産額ヲ減シ就中實棉ニ至テハ近時甚シキ衰況ヲ呈セリ今此等ノ農作物ニ就キ之カ沿革ヲ舉クレハ左ノ如シ

一 米 作

縣下ノ産米ハ其品質之ヲ他府縣ノ産ニ比シ甚シキ遜色アルヲ見ス殊ニ藩政時代ニ在テハ貢租米納ノ爲メ之カ取締自ラ嚴重ナリシヲ以テ品位佳良辟價市場ニ噴々タリシカ廢藩後米納ノ制廢セラレシヨリ乾燥調製俵裝等年々甚ク粗漏ニ流レ加フルニ明治十二年ノ頃ヨリ米價ノ昇騰ニ伴ヒ農家ハ品質ノ如何ヲ顧ルニ暇ナク倍々收穫ノ多量ナルモノヲ撰定セシヲ以テ米質亦昔日ノ如クナラサルニ至レリ現ニ明治十九年ニ於テハ早稻ノ作付貳千五百拾七町四反中稻ノ作付九千參百拾貳町參反晚稻ノ作付壹萬八千五百六拾八町四反歩ナリキ然ルニ今日トナリテハ殆ト晚稻ノモトナリ從テ品質粗惡ナルニ至レリ斯ノ如クナルヲ以テ爾來益々改善ノ必要ヲ認メ當路者モ亦大ニ之カ勸誘ニ努メ或ハ種苗ノ交換會ヲ開キ或ハ共進會ヲ開設シ同二十六年ニ至リテ米作改良試驗補助規則ヲ設ケ續テ各郡ニ稻作改良ノ教師ヲ聘シ專ラ之カ勸誘ニ努メタリシモ其効果極メテ渺カリシヲ以テ同三十五年ニ至リ重要物産同業組合法ニ依リ之カ改良組合ヲ設置セントシ定款ヲ草シ委員ヲ設ケ專ラ

之カ勸誘ニ務メタリ然レトモ九萬有餘ノ農家中成規ノ調印ヲ爲サシムルコト容易ナラサルヲ以テ終ニ其効ヲ奏スルニ至ラザリキ同三十七年日露兵ヲ交ユルニ當リ國力ノ發展愈急ヲ訴ヘ殊ニ此際民心ノ概ネ一致シ易キヲ慮リ此期ヲ利用シテ大ニ農事ノ發達普及ヲ圖フントシ産業上ニ關スル時局注意事項ナルモノヲ設ケテ銳意之カ實行普及ニ努メタリ茲ニ於テ農家モ亦能ク其主旨ヲ了シ從來行ハレサル事項モ爲ニ大ニ其効果ヲ收ムルヲ得タリト雖モ米製俵裝等ニ至リテハ到底普通ノ獎勵ヲ以テ充分ナル効果ヲ收メ難キヲ以テ四十年三月縣令ヲ以テ米穀検査規則ヲ發布シ同年ノ産米ヨリ之カ検査ヲ施行スルト同時ニ一面復タ大ニ之カ改善ヲ獎勵セリ今米作ニ關シ勸誘セシ主ナル事項及其成績並ニ米穀検査ノ成績ヲ舉クレハ概略左ノ如シ

勸誘セシ主ナル事項及成績

- 一 粃種子ハ抽水撰ヲ爲ス事
- 二 粃種子改良實行ノ事
- 三 共同苗代勸誘ノ事
- 四 正條植實行ノ事

五專ラ苗代田ニ於テ病蟲害ノ防除ヲ爲ス事
 六米ノ乾燥ヲ完全ナラシムル事
 右ニ對スル實行成績ハ左ノ如シ

粃種子塩水撰

年次	總數	實行數	實行百分率
三十六年	一三、六九七	四、六七六	三四
三十七年	一三、七八四	一一、八一七	八六
三十八年	一三、二七八	一一、二四四	八六
三十九年	一三、六九九	一二、四七六	九一
四十年	一三、七五〇	一二、四四〇	九〇
四十一年	一三、七八〇	一二、七四五	九二

備考 町村又ハ農會ニ於テ食鹽若クハ苦汁代ヲ補助シ町村吏員又ハ農會役員
 監督ノ下ニ共同撰種或ハ巡回撰種ヲ爲サシメ以テ之カ實行ヲ獎勵セリ

共同苗代田

年次	總數	實行數	實行百分率
三十六年	不詳	不詳	不詳
三十七年	九八五、二	一〇七、一	一〇
三十八年	九九九、四	二二八、三	二二
三十九年	九九〇、一	二〇五、六	二一
四十年	一、〇〇五、一	二〇一、七	二〇
四十一年	一、〇三三、五	一九六、〇	一九

備考 表中ノ實行數ハ二名以上共同セシモノ、數ヲ示セリ

正條植

年次	總數	實行數	實行百分率
三十六年	三七、四四〇、一	四、九七五、八	一三
三十七年	三七、五五九、八	二〇、二八八、六	五四
三十八年	三七、二八七、六	三三、〇〇一、三	八八
三十九年	三七、七〇一、七	三五、八八二、七	九五
四十年	三八、〇二一、三	三六、〇八一、〇	九五
四十一年	三八、〇六一、一	三八、〇二八、五	一〇〇

備考 三豐郡ヲ除クノ外其實行頗ル僅々タリシカ種々獎勵ノ結果漸時發達ス
 ルニ至レリ

苗代田害蟲驅除

年次	採卵數	捕蛾數	誘蛾燈數
三十七年	五、四六二、四九六	一、二、八三〇、〇四一	三、四、二三一
三十八年	七、五七五、六八九	一、六、三七六、二六一	六、二、一五七
三十九年	六、七五九、四〇四	一、八、九一二、五五六	六、四、八四二
四十年	不詳	不詳	不詳
四十一年	不詳	不詳	不詳

備考 農家及學生ヲシテ驅除セシムル等各種ノ手段ヲ以テ之ヲ獎勵セリ

米ノ乾燥

年次	總數	實行數	實行百分率
三十六年	七二五、九八六	四、七五九	一
三十七年	八四八、二八六	三〇、七二一	三
三十八年	七六四、七〇八	一九、六七八	三
三十九年	八〇五、〇一九	一七、四三〇	二

明治四十年産米ヨリ米穀検査ヲ實行セシヲ以テ之ト同時ニ本調査ヲ中止セリ

三麥作

麥ハ田畑ヲ通シ之カ栽培ヲナスヲ以テ其作付甚タ多シ往時ハ大麥ヲ以テ常食トスル者少カラサリシカ搗精ノ勞力ヲ要スルコト多ク爲ニ之カ栽培ヲ廢スル者アルヲ

以テ今ヤ甚シク其數量ヲ減シ裸麥ト小麥トハ共ニ益々増加スルニ至レリ而テ裸麥ハ從來青麥赤鬼等ノ種類ヲ多ク栽培シ來リシカ爾來屋根裸種ノ栽培ヲ増加シ明治三十年ノ頃ヨリ麥稈眞田業ノ漸次發達スルニ伴ヒ「コピンカタギ」ト稱スル種類ヲ多ク栽培スルニ至レリ又同二十六年ノ頃ヨリ農商務省ニ於テ大麥「ゴールデンメロン」六角シユバリエー「小麥」フルツ「カリホルニヤ」等ノ種子ヲ配付セラレ何レモ子粒大キクシテ收穫多量ナリシカ成熟遅キヲ以テ終ニ之カ繁殖ヲ見ルニ至ラサリキ其他麥作ニ對シテハ之カ獎勵ヲ加ヘタルコト多カラサリシカ同三十七年「露戰端」ヲ開クニ當リ大ニ各種産業ノ發達ヲ圖ラントシ之カ獎勵ニ努メタル結果從來實行セラレサリシモノモ爲ニ著ク其効果ヲ收ムルヲ得タリ就中鹽水撰種麥奴拔除等ハ其重要ナルモノニシテ之カ成績ヲ擧クレハ左ノ如シ

麥種子鹽水撰

年次	總數	實行數	實行百分率
三十六年	一、一、二八七	三、一八〇	二、三
三十七年	一、一、七〇三	九、三九九	七、四
三十八年	一、三、〇四六	一〇、一三〇	七、八

年次	總數	實行數	實行百分率
三十九年	一三、三八二	一一、〇九三	八二
四十年	一三、四四三	一一、〇〇六	八一
四十一年	一三、六七〇	一〇、六七八	七八

備考 穀種鹹水撰ト同一ノ手段ニ依リテ之カ實行ヲ獎勵セリ

麥奴拔除

年次	總數	實行數	實行百分率
三十六年	四一、八九〇、三	三三、七八〇、八	八一
三十七年	四〇、六三〇、七	三一、八一七、二	七七
三十八年	四三、三七一、一	三五、二二一、〇	八一
三十九年	四一、五七三、〇	三四、五五三、二	八三
四十一年	四二、六八四、四	三七、二五一、七	八七

備考 農家ハ勿論小學校生徒ニ賞與ヲ爲シ教員監督ノ下ニ生徒ヲシテ實行セシメタルモノ多シ

四甘蔗作

砂糖ノ製造ハ往時頗ル旺盛ヲ極メタリ今之カ起原ヲ尋ヌレハ寒川郡志度町ニ平賀

源内ナル者アリ幼ヨリ醫業ニ志シ傍ヲ意ヲ殖産ニ傾ケ又洋學ヲ修メテ屢外國人ニ交ハル資曆ノ初メ香川郡東濱村ノ内花畑ニ於テ甘蔗ノ栽培ヲ試ミムトシ各地ノ種類ヲ集メテ之カ栽培ヲ爲シ白下白砂糖及氷砂糖ヲ製ス同十三年ニ至リテ物類品騰六冊ヲ著述シ甘蔗植付ノ地擇法、莖貯法、植莖分栽法、伐莖法、製車法、造糖法、白法、氷糖法軌造蔗取漿圖、澆結糖霜瓦器ノ圖解等ヲ著シ以テ其業ヲ勸ム之ヲ讃岐糖業ノ濫觴トス然レトモ當時未タ栽培製糖ノ術進マス品質隨テ惡シク産額亦僅少ナリキ又寛政ノ頃大内郡淡村向山周慶ナル醫師アリ術ヲ藩醫池田玄丈ニ學ヒ且思ヒテ殖産ニ用ヒ頗ル遠大ノ志ヲ抱ケリ時ノ藩主松平頼恭比年旱魃ノ害多ク農作爲ニ稔ラサレハ甘蔗ノ或ハ地ニ應セムコトヲ慮リ之カ栽培ヲ獎勵セリ然レトモ製糖ノ法未タ精シカラス收支相償ハサルヲ以テ待醫池田玄丈ニ命シ其法ヲ研鑽セシメシカ不幸ニシテ二豎ノ患アリ主命ヲ全フスル能ハス病革マルニ及ンテ之ヲ周慶ニ遺囑ス其後周慶醫術修行ノ爲メ京都ニ遊學ス偶同窓ニ薩摩人アリ能ク之カ栽培製造ノ秘術ヲ詳悉ス周慶之カ傳授ヲ懇請スルコト頻リナルモ藩禁アリ之ヲ他ニ傳フルヲ許サ、リシ周慶歸郷ノ後其人火災ニ罹リ非常ノ困難ニ遭遇セルヲ聞キ夙ニ同窓ノ好アリ且志望ノ存スルアルヲ以テ之ニ金錢ヲ贈リ以テ惠愛ノ意ヲ表セリ薩人爲ニ其困難

ヲ脱シタルヲ以テ深ク其交誼ニ感シ遂ニ國禁ヲ犯シテ之レカ秘術ヲ傳ヘリ又其後薩摩人其助ナル者來リ偶湊村ニ至リテ病甚シ周慶其寄ル所ナキヲ憫ニ邸内ニ別房ヲ設ケテ醫藥食餌ヲ給シ以テ之ヲ養フ幸ニ病愈ユルニ及ヒテ之ヲ薩摩ニ遣シ甘蔗數莖ヲ採ラシメ翌年之ヲ邸内ニ試作ス良助再生ノ恩ニ酬ユルカ爲メ熱誠其勞ニ服シ且其熟煉ナル技術ニ依リテ優等ノ砂糖ヲ製出スルヲ得タリ爰ニ於テ藩廳命ヲ周慶ニ傳ヘ封内ヲ巡教セシム其他藩廳ニ於テハ益之カ隆盛ヲ謀ラムガ爲メ享和元年高松海岸ノ地ヲ埋メテ會所ヲ設ケ數艘ノ運送船ヲ置キテ之カ運搬ニ便ニシ又藩主ノ元銀ヲ貸與シ文化ノ初ヨリ該業ニ關スル一切ノ事務ヲ郡奉行ニ於テ掌理セシメ專ラ之カ保護獎勵ニ努メシモ姦商輩ノ爲ニ妨ケラレ文化四年之カ保護ヲ解クニ至レリ然レトモ甘蔗ノ栽培日ニ益多キヲ加ヘ天保年間ニ至リテ大ニ產額ヲ増加セリ當時藩ノ財政頗ル困難ヲ極メタルヲ以テ一面之カ恢復ヲ計ラムトシ同六年十二月九日ヲ以テ新ニ役所ヲ設ケ(第一篇ニ詳ナリ)藩金ヲ投シテ肥料ノ購入ヨリ製糖販賣ニ至ル迄總テ爲替法ヲ布キ又若干ノ金員ヲ郡奉行ニ下附シ郡奉行所ニ在テハ砂糖方引除キノ役所ヲ設ケ右金員ノ低利貸付ヲ行ヒ以テ大ニ農家ノ利便ヲ計リ或ハ甘蔗製糖ニ關スル届出ヲ爲サシメ或ハ吏員ヲ派シテ之カ巡檢ヲ爲サシメ或ハ甘蔗作

地ニ他ノ種穀ヲ作付セントスル者ハ田方毛作替ト稱シ之カ届出ヲ爲シ調査ヲ受ケシムル等專ラ之カ保護獎勵ニ努メタルヲ以テ一時頗ル盛況ヲ極ムルニ至レリ然レトモ廢藩ト共ニ此等ノ制度廢滅ニ歸シ肥料購入ノ如キ資力ノ乏キ者ニ至テハ往々他ノ作物ヲ栽培スル者増加シ加フルニ外國糖ノ輸入ニ壓セラレ漸々衰頽シテ終ニ今日ノ狀況ヲ呈スルニ至レリ之カ栽培ハ創始ノ際ヨリ嘉永年間迄ハ多ク坪植ト爲シ灌水スルコト稀ナリシカ安政年間ヨリ長植ト稱シ畦上ニ溝ヲ作り水ヲ灌キテ種莖ヲ置キ芽隱シト稱シテ砂ヲ覆フニ至レリ施肥ハ從來十中ノ三ヲ第一耕鋤ノ際ニ施シ十分ノ七ヲ止肥ト爲セシカ明治ノ初ヨリハ十中ノ六七ヲ溝底ニ埋メ殘餘ノ三ヲ止肥トナシ半夏前後ニ施用セリ而テ土地ノ乾燥甚シキトキハ時々灌水ヲ爲スヲ以テ常トセリ產額ハ天保年間迄ハ甘蔗百貫ニ對シ白下三十斤ヲ得ルニ過キサリシカ漸次進歩ノ結果明治二十一年頃ヨリ百貫ニ付三十九斤ヲ得ルニ至レリ

五 甘蔗作

甘蔗ノ栽培ハ其起原漠トシテ釋スルニ山ナント雖トモ之カ栽培ハ近時益發達シ產額年々増加セリ殊ニ從來ハ方言マイモト稱シ白色美味ノモノヲ多ク栽培セシカ明治十二三年ノ頃ヨリ米價ノ騰貴ニ伴ヒ農家ハ品質食味ノ如何ヲ論スル暇ナク專ラ

收穫ノ多キ種類ヲ栽培スルニ至レリ又往時甘蔗棉花ノ栽培盛ナリシ時代ニ在テハ爲メニ其土地ヲ要スルコト多カリシモ該業ノ比年衰微スルニ從ヒ之カ代用作物トシテ甘蔗ノ栽培ヲ爲スモノ益増加スルニ至レリ然レトモ之カ栽培ノ方法ニ至テハ古來未タ甚シキ變化アリシヲ見ス

六 棉 作

棉花栽培ノ起原モ亦茫乎トシテ之ヲ詳ニスルヲ得スト雖トモ往時ハ砂糖食鹽ト共ニ畿岐ノ三白ト稱シ一時頗ル盛況ヲ極メタリ當時ハ其品質善良ニシテ産額モ亦多量ナリシカ明治十七年ノ頃ヨリ漸次其收量ヲ減シ加フルニ近時通商貿易ノ盛ナルニ伴ヒ外國棉ノ輸入セシモノ多ク爲ニ甚シク其市價ヲ壓倒セラレ收支相償難キヲ以テ今ヤ著シク衰頹ヲ來タシ殆ント地ヲ拂ハントスルノ狀ヲ呈スルニ至レリ

肥料狀況

一 肥料消費ノ狀況

縣下ニ於ケル農作物ノ肥料ハ主トシテ堆肥人糞尿ヲ使用スト雖ヒ魚肥人造肥料米糠大豆粕等年々縣外ヨリ輸入スルモノ亦尠カラズ而テ往時ニ於テ消費セシ數量及

價額ハ正確ナル統計ナク之ヲ知ルニ由ナシト雖ヒ明治三十五年ヨリ同三十七年迄三ヶ年間ニ於ケル縣下ノ販賣肥料並同年間縣外ヨリ直接共同購入セシ肥料ノ數量及價額ヲ舉クレハ左ノ如シ

肥料販賣高

種 別	三 十 五 年		三 十 六 年		三 十 七 年		平 均	
	數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額
鯨 油 粕	二、三六、二四	七六、三三	三、〇六、八八	七四、五五	一、四六、八八	九三、六六	一、九一、〇〇	八三、三三
米 糠	三、二六、六六	一、八四、三二	一、六六、八八	三三、三三	一、九一、〇〇	二、二七、七六	一、七〇、七六	三、一六、二七
大 豆 粕	四、七〇、七〇	七五、八八	四、七〇、七〇	七五、八八	三、三三、三三	四、七〇、七〇	三、三三、三三	三、一六、二七
化學的肥料	一、七〇、八二	五、二二	一、〇〇、〇〇	六、三三	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	五、二二
日本 菜種油粕	一、六、三三	四、六六	一、〇〇、〇〇	六、三三	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	四、六六
清國 菜種油粕	一、六、三三	四、六六	一、〇〇、〇〇	六、三三	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	四、六六
干 菜 油 粕	一、〇、〇〇	三、三三	一、〇〇、〇〇	三、三三	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	三、三三
船 貨 油 粕	一、〇、〇〇	三、三三	一、〇〇、〇〇	三、三三	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	一、九一、〇〇	三、三三
雜 肥 料	三、二六、六六	一、八四、三二	一、六六、八八	三三、三三	一、九一、〇〇	二、二七、七六	一、七〇、七六	三、一六、二七
合 計	五、八七、三三	一、三〇、八八	五、八七、三三	一、三〇、八八	一、三〇、八八	一、三〇、八八	一、三〇、八八	一、三〇、八八

郡市別肥料販賣高

四〇四

郡市名	三十五年		三十六年		三十七年		平均	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
大川郡	八〇,一七九	二八〇,〇三三	五〇,七三三	一六〇,五〇四	三三,七三三	一〇六,〇〇〇	一三,七三三	一三,七三三
木田郡	三三,九六九	一〇八,八八四	一〇,九六九	三三,〇三三	一六,〇三三	五〇,〇三三	三三,〇三三	六,八八四
小川郡	三三,九六九	一〇八,八八四	一〇,九六九	三三,〇三三	一六,〇三三	五〇,〇三三	三三,〇三三	六,八八四
仲多度郡	三三,九六九	一〇八,八八四	一〇,九六九	三三,〇三三	一六,〇三三	五〇,〇三三	三三,〇三三	六,八八四
三豊郡	三三,九六九	一〇八,八八四	一〇,九六九	三三,〇三三	一六,〇三三	五〇,〇三三	三三,〇三三	六,八八四
高松市	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
丸亀市	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
合計	三〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇

郡市別肥料共同購入

郡市名	三十五年		三十六年		三十七年		平均	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
大川郡	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇
木田郡	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇
合計	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇	七,〇〇〇	二一,〇〇〇

肥料購入高總計

郡市名	三十五年		三十六年		三十七年		平均	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
小川郡	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇
香川郡	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇
綾歌郡	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇
仲多度郡	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇
三豊郡	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇
高松市	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇
丸亀市	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇
合計	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇	三,三三三	一〇,〇〇〇

二肥料ノ集散

種別	三十五年		三十六年		三十七年		平均	
	数量	價額	数量	價額	数量	價額	数量	價額
個人購入	五八,五三三	一,〇七,七六六	五八,五三三	一,〇七,七六六	五八,五三三	一,〇七,七六六	五八,五三三	一,〇七,七六六
共同購入	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一,二〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
合計	一,七八,五三三	一,三七八,七六六	一,七八,五三三	一,三七八,七六六	一,七八,五三三	一,三七八,七六六	一,七八,五三三	一,三七八,七六六

藩政時代ニ在テハ肥料ハ問屋株ナルモノアリテ妄リニ之カ賣買ヲ許サ、リシカ高松藩ニ在テハ天保年間糖業獎勵ノ爲メ砂糖會所ヲ設置セシ以來同會所ニ限リ他國

四〇五

ノ入船ニ就キ直ニ之ヲ買入ル、コトヲ許シ相當ノ口錢ヲ以テ之ヲ糖業者ニ賣却セシメタリシガ廢藩後此等ノ制度モ亦廢滅ニ歸シタルヲ以テ之カ賣買ヲ爲ス者甚シク増加シ明治三十八年ニ至リテハ該營業者ノ數約六百名ノ多キニ達セリ之カ集散地トシテ重要ナル地方ヲ舉クレハ豊濱町觀音寺町多度津町九龜市宇多津町坂出町高松市志度町草壁村トス就中其最モ盛ナルハ多度津町ニシテ高松市志度町豊濱町等之ニ亞ケリ而テ豊濱町ニ輸入セルモノハ三豊郡南部多度津町ニ輸入ノモノハ仲多度三豊及綾歌郡ノ一部九龜市ニ輸入ノモノハ綾歌三豊ノ一部宇多津町坂出町ニ輸入ノモノハ綾歌郡内高松市ニ輸入ノモノハ香川木田兩郡並ニ綾歌ノ一部ニ志度町ニ輸入ノモノハ大川木田郡ノ一部ニ津田町三本松町及引田村ニ輸入ノモノハ大川郡内ニ土庄町及草壁村ニ輸入ノモノハ小豆郡内並ニ香川大川兩郡ノ内ニ分配ス然シテ縣下製造ノ肥料ニシテ縣外ニ輸出スルモノハ僅々油粕ノ徳島縣ニ向ケ輸出スルモノアルニ過キヌ又縣外ヨリ輸入ノ肥料中米糠ハ堺灘大坂尼ヶ崎神戸兵庫岡山等ヨリ輸入シ鯨粕ノ多度津港ニ輸入スルモノハ北海道ヨリ直接輸入スト雖モ其他ハ多ク玉嶋尼ノ道及大坂兵庫等ヨリ輸入シ大豆粕ハ大坂神戸等ヨリ輸入シ清國産ノ油粕ハ長崎神戸兵庫等ヨリ輸入スルモノ多シトス

三 主要作物ニ施用スル肥料ノ種類及用法

主要各作物ニ對スル肥料ノ種類及用法ハ年ヲ經ルニ從ヒ漸次其趣ヲ異ニセリ今明治二十一年中ニ於ケル調査ヲ掲ケ爾來之カ變遷ノ大要ヲ示ス左ノ如シ

米作肥料

一反歩ニ要スル施肥ノ數量及價額

郡名	種類	最多施量		普通施量		最少施量	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
大川郡	下草肥	百廿七貫	壹圓七拾	五十貫	七拾五錢	三十貫	參拾五錢
	人糞	七十貫	貳圓七拾	貳拾五貫	壹圓四拾五錢	十五貫	五拾五錢
	合計	百七十貫	貳圓七拾	五十貫	壹圓四拾五錢	三十貫	參拾五錢
木田郡	下草肥	七十貫	壹圓七拾	五十貫	七拾五錢	三十貫	參拾五錢
	人糞	七十貫	貳圓七拾	貳拾五貫	壹圓四拾五錢	十五貫	五拾五錢
	合計	七十貫	貳圓七拾	五十貫	七拾五錢	三十貫	參拾五錢
小豆郡	下草肥	百廿七貫	壹圓七拾	五十貫	七拾五錢	三十貫	參拾五錢
	人糞	七十貫	貳圓七拾	貳拾五貫	壹圓四拾五錢	十五貫	五拾五錢
	合計	百廿七貫	壹圓七拾	五十貫	七拾五錢	三十貫	參拾五錢
小豆郡	牛馬踏肥	四十五荷	九拾錢	廿六荷	七拾八錢	百七十貫	壹圓貳錢
	刈草	百廿貫	八拾錢	七拾貫	七拾貳錢	五十荷	壹圓八錢
	鮮糞	十三貫	貳圓八拾六錢	八貫	壹圓四拾五錢	五十荷	壹圓八錢

郡名	大川郡		木田郡		小豆郡		香川郡
	種類	數量	種類	數量	種類	數量	
種類	下草	二百五十貫	下草	二百五十貫	人糞	二百五十貫	人糞
	合草	二百五十貫	合草	二百五十貫	合草	二百五十貫	合草
數量	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫
	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫
價額	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
普通數量	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫
	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫
普通價額	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
最少數量	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫
	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫	二百五十貫
最少價額	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢

四〇九

本表ノ如ク從來ハ主トシテ堆肥下草人糞米糠及魚肥ノ類ヲ施用セシカ近來ニ至テハ大豆粕及人造肥料等ヲ使用スル者漸次多キヲ加フルニ至レリ

裸麥作肥料

一反歩ニ要スル施肥ノ數量及價額

郡名	香川郡		綾歌郡		仲多度郡		三豊郡	
	種類	數量	種類	數量	種類	數量	種類	數量
種類	合草	四百五十貫	合草	四百五十貫	合草	四百五十貫	合草	四百五十貫
	合草	四百五十貫	合草	四百五十貫	合草	四百五十貫	合草	四百五十貫
數量	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫
	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫
價額	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
普通數量	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫
	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫
普通價額	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
最少數量	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫
	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫	四百五十貫
最少價額	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢
	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢	壹圓貳拾五錢

四〇八

郡名	種類	最多施量		普通施量		最少施量	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
三豐郡	合堆肥計	五十	三圓九拾零錢	七十二	貳圓九拾六錢	百二十	壹圓四拾四錢
		十	貳圓七拾錢	七	壹圓四拾七錢	十五	四拾五錢
仲多度郡	合堆肥計	十四	貳圓九拾五錢	八	貳圓七拾六錢	三十	六拾五錢
		三	壹圓九拾錢	三	壹圓七拾五錢	十	參拾五錢
綾歌郡	合堆肥計	四	貳圓四拾五錢	二	壹圓四拾五錢	八	四拾錢
		二十	壹圓四拾五錢	七	壹圓四拾七錢	十二	壹圓四拾錢
香川郡	合堆肥計	六	貳圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
		七	貳圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
小豆郡	合堆肥計	五	貳圓九拾錢	八	貳圓七拾六錢	四	四拾八錢
		十	壹圓四拾錢	五	壹圓四拾錢	四	四拾八錢
木田川郡	合堆肥計	百	壹圓四拾錢	百	壹圓四拾錢	七	七拾錢
		百	壹圓四拾錢	百	壹圓四拾錢	七	七拾錢

本表ノ如ク從來ハ下草堆肥人糞尿油粕魚肥ノ類ヲ使用スルモノ多カリシカ近來ニ至テハ人造肥料及大豆粕清國產油粕ノ類ヲ使用スルモノ漸ク増加スルニ至レリ又堆肥ハ播種ノ際之ヲ施用スルノ外古來ノ慣習トシテ冬季之ヲ麥ノ葉上ニ撒布スルヲ以テ普通トセリ如此ハ空ク肥料中ノ養分ヲ飛散セシムルモノナレハ近來稍ヤ之

カ用法ニ注意スル者アルニ至レリ

甘藷作肥料

一反歩ニ要スル施肥ノ數量及價額

郡名	種類	最多施量		普通施量		最少施量	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
三豐郡	合堆肥計	三十	壹圓四拾錢	百	壹圓四拾錢	七	七拾錢
		百	壹圓四拾錢	百	壹圓四拾錢	七	七拾錢
仲多度郡	合堆肥計	六	貳圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
		七	貳圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
綾歌郡	合堆肥計	三	壹圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
		七	貳圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
香川郡	合堆肥計	三	壹圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
		七	貳圓九拾錢	三	壹圓四拾錢	二	貳圓拾錢
小豆郡	合堆肥計	五	貳圓九拾錢	八	貳圓七拾六錢	四	四拾八錢
		十	壹圓四拾錢	五	壹圓四拾錢	四	四拾八錢
木田川郡	合堆肥計	百	壹圓四拾錢	百	壹圓四拾錢	七	七拾錢
		百	壹圓四拾錢	百	壹圓四拾錢	七	七拾錢

甘蔗ノ肥料ハ本表ノ如クニシテ今尙甚シキ變動アルヲ見ス

甘蔗作肥料

一反歩ニ要スル施肥ノ數量及價額

郡名	種類	最多施量		普通施量		最少施量	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
大川郡	人糞	二十荷	七圓四拾錢	十五荷	五圓七拾五錢	二十荷	參圓五拾錢
	油粕	四十荷	六圓四拾錢	二十五荷	五圓七拾五錢	二十荷	參圓五拾錢
	合計	六十荷	十二圓二拾錢	四十荷	十一圓一拾錢	四十荷	六圓四拾錢
木田郡	人糞	二十荷	七圓四拾錢	十五荷	五圓七拾五錢	二十荷	參圓五拾錢
	油粕	四十荷	六圓四拾錢	二十五荷	五圓七拾五錢	二十荷	參圓五拾錢
	合計	六十荷	十二圓二拾錢	四十荷	十一圓一拾錢	四十荷	六圓四拾錢
小豆郡	人糞	五十荷	拾圓四拾錢	三十荷	八圓四拾錢	二十荷	參圓五拾錢
	油粕	五十荷	拾圓四拾錢	三十荷	八圓四拾錢	二十荷	參圓五拾錢
	合計	一百	二十圓	六十荷	十六圓八拾錢	四十荷	七圓四拾錢

本表ノ如ク主トシテ魚肥油粕人糞堆肥等ヲ施用シ來リシカ是亦近來ニ至リ人造肥料ヲ多ク施用スルモノアルニ至レリ

四不正肥料ノ増加及肥料検査

郡名	種類	最多施量		普通施量		最少施量	
		數量	價額	數量	價額	數量	價額
香川郡	人糞	五十荷	拾圓四拾錢	三十荷	八圓四拾錢	二十荷	參圓五拾錢
	油粕	五十荷	拾圓四拾錢	三十荷	八圓四拾錢	二十荷	參圓五拾錢
	合計	一百	二十圓	六十荷	十六圓八拾錢	四十荷	七圓四拾錢
綾歌郡	人糞	四十荷	七圓五拾錢	三十荷	八圓四拾錢	二十荷	參圓五拾錢
	油粕	四十荷	七圓五拾錢	三十荷	八圓四拾錢	二十荷	參圓五拾錢
	合計	八十荷	十四圓	六十荷	十六圓八拾錢	四十荷	七圓四拾錢
仲多度郡	人糞	七十荷	拾圓四拾錢	五十荷	八圓四拾錢	三十荷	參圓五拾錢
	油粕	七十荷	拾圓四拾錢	五十荷	八圓四拾錢	三十荷	參圓五拾錢
	合計	一百四十荷	二十圓	八十荷	十六圓八拾錢	六十荷	七圓四拾錢
三豊郡	人糞	三十荷	七圓四拾錢	二十荷	五圓七拾五錢	十荷	參圓五拾錢
	油粕	三十荷	七圓四拾錢	二十荷	五圓七拾五錢	十荷	參圓五拾錢
	合計	六十荷	十四圓八拾錢	四十荷	十一圓一拾錢	二十荷	七圓四拾錢

最近農事ノ進步ニ伴ヒ肥料ノ需用増加シ物價ノ騰貴スルニ隨ヒ價額モ亦益々昇騰セリ故ニ資金ニ豊ナラサル小農家ニ在テハ之レカ購入ニ苦ムノ結果品質ノ良否ヲ問ハス只價額ノ廉ナルヲ望ムモノアルヲ以テ奸商輩此機ニ乘シ種々ノ不正手段ヲ行フモノアルニ至レリ即チ鯨粕ハ輸入後之ニ赤色ノ土ヲ混シ或ハ海水ヲ注ギテ其重量ヲ増加スルモノ多ク又米糠ハ輸入前縣外ニ於テ行ハル、モノニシテ其手段ハ鋸屑ヲ細碎シ之ヲ混淆スルヲ以テ一見識別スルコト難シ其他縣ノ内外ヲ問ハス之ニ石粉ヲ混スルモノ多シ又菜種油粕ハカモジ(女子結髪ノ際添加スルモノ)砂ト稱シカモジ製造ノ際ニ其脂油ヲ去ルカ爲ニ用ヒタル土砂ヲ混淆シ或ハ紡績所ノ塵粉ヲ混淆シ棉實油粕ニ在テハ之ヲ眞粉粕ト稱シ其子實ノミヲ以テ製造スルモノニ拘ラス往々其外皮ヲ混淆スルカ如シ以上ノ不正手段ハ何レノ時代ヨリ行ハレタルカ今得テ稽フヘカラスト雖トモ年ヲ經ルト共ニ益々其甚シキヲ加フルニ至レリ是レ洵ニ惡ムヘキコトナリト雖トモ亦畢竟農家ノ智識未タ發達セス品質ノ如何ヲ鑑別スルノ明ナクシテ妄ニ價額ノ低廉ナルヲ望ムニ基因セサルハアラス茲ニ於テカ政府ハ明治三十二年四月五日肥料取締法ヲ發布シ同三十四年十二月ヨリ之ヲ實施セラレ本縣ノ如キモ肥料検査官吏二名ヲ配置シテ之カ検査ヲ爲サシムルニ至レリ爾來同検査官吏ハ屢々

縣下ヲ巡回シテ之カ検査ヲ行ヒ肥料ノ濕氣ヲ帶フルモノハ之ニ乾燥ヲ命シ朝鮮干鰯ノ類ニシテ砂ヲ混スルコト多キモノハ全然之カ販賣ヲ禁止セルヲ以テ此種ノ肥料ハ一時殆ト其跡ヲ絶ツニ至レリ然ルニ日露ノ開戦ニ際シ肥料ノ價額甚シク暴騰シ爲ニ再ヒ不正肥料ヲ増加シ現ニ之カ販賣ヲ禁止セルモノ三十七年中ニ於テ二萬壹千貳百六拾七貫三十八年ニ於テ壹萬千五百九拾貫違犯者ヲ告發セシモノ三十七年三十八年共ニ十五名ツ、ノ多キニ達シ爾來復甚シキ不正品ヲ販賣スルモノ多カラサルニ至レリ

五肥料改良ニ關スル獎勵

明治三十七年ノ調査ニ依レハ縣下肥料營業者ニ於テ販賣スルモノ約百貳拾萬圓ニシテ之ニ個人又ハ町村其他農會ニ於テ直接縣下ヨリ共同購入セルモノヲ合算セハ其額約百五拾萬圓ノ多キニ達セリ而モ其多クハ縣外輸入品ニシテ縣内製産ノモノ僅々貳拾五萬圓内外ノ菜種油粕棉實油粕及米糠ノ三種アルノミ斯ノ如キハ農業經濟上大ニ注意ヲ要スヘキ點ナルヲ以テ明治三十年頃ヨリ農事講習會又ハ農談會等ノ開設ニ際シ綠肥紫雲英ノ栽培又ハ堆肥改良等ニ關スル獎勵ヲ爲セリ然レトモ其効果ハ殆ト見ルヘキモノアラサリシカ明治三十七年日露開戦ニ際シ此期ヲ利用シ

堆肥ノ改良綠肥ノ栽培共ニ大ニ之カ實行ヲ獎勵シタルノ結果漸ク之カ改良普及ノ効ヲ見ルニ至レリ今其結果ヲ舉クレハ左ノ如クニシテ他日益之カ發達ヲ見ルニ至ラハ爲ニ大ニ肥料ノ輸入ヲ減少スルニ至ルヘシ

堆肥改良

(三十八年調)

郡市名	堆肥製造總戸數	堆肥舍設置數	實行百分率	前年度迄ニ設置セシ戸數
大川郡	七、四五二	四、五〇一	六〇	一、七八一
木田郡	九、二〇〇	四、七四九	四一	四、四七七
小豆郡	三、〇一七	二二四	七	一七八
香川郡	九、〇六三	一、九〇三	二二	一、九〇三
綾歌郡	一四、二一九	一、六六六	一二	一、一三六
仲多度郡	一、四八八	二、七二二	三四	二、二八八
三豊郡	一四、五九三	四、四九九	三一	四、四一七
高松市	一一三	六	五	六
丸龜市	一一六	六	五	六
合計	六九、二七一	二〇、二六〇	二九	一六、一八六

綠肥栽培

(三十八年調)

郡市名	栽培反別			一反歩平均收量			前年栽培反別		
	大豆	紫雲英	其他	大豆	紫雲英	其他	大豆	紫雲英	其他
大川郡	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
木田郡	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
小豆郡	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
香川郡	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
綾歌郡	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
仲多度郡	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
三豊郡	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
高松市	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
丸龜市	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇
合計	一、八二二	一、九〇二	一、九〇二	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇

農作物ノ被害

一被害ノ種類及古來慣行

農作物ニ損害ヲ與フルモノ甚タ多シト雖トモ本縣ニ於テ普通ナルモノヲ虫害病旱害及風害トス古來迷信ノ甚シキ時代ニ在テハ旱天久シキニ豆レハ雨乞ト稱シ各所ノ高山ニ登リ終夜雜踏シ或ハ神社ニ集リ神職ニ請フテ雨ヲ祈レリ又綾歌郡瀧宮ニ在テハ古來念佛踊ト稱スルモノアリシヲ利用シ七八歳ノ幼童華笠ヲ戴キ袴ヲ着シ服裝ヲ美ニシテ之ヲ左右ニ列セシメ鐘鼓ヲ打チ法螺ヲ鳴シ其中央ニ於テ一人大團

扇ヲ探テ舞踏シ左右一齊ニ念佛ヲ唱ヘ之レニ和セリ此他早魃一層甚シキニ至レハ
 數村聯合シテ高山ニ登リ焚火ヲ爲シテ以テ雨ヲ禱リタリト云フ然レトモ近來ニ至
 リテハ大ニ其弊風ヲ一掃セリ又蟲害ノ發生ニ際シテハ古來神前ニ集リテ蟲除ノ祈
 禱ヲ爲シ蟲除ノ守札ヲ得テ之ヲ田間ニ建テ或ハ蟲送ト稱シ害蟲數頭ヲ捕獲シテ之
 ヲ竹筒ニ納メ神前ニ集メテ除蟲ノ祈禱ヲ行ヒ之ヲ河川又ハ村界ニ投シ或ハ小篠ニ
 吊シテ農民各自之ヲ携帶シ或ハ晝間明松ヲ点シテ田間ヲ巡リ神職僧侶來リテ驅除
 ノ祈禱ヲ爲シ前者ト等シク之ヲ村界又ハ海邊ニ送ルヲ以テ例トセリ是其意除害ニ
 切ナルモ其愚笑フヘク維新後ニ至リテハ漸次此弊風ヲ滅セリ然ルニ明治三十年稻
 作害虫浮塵子ノ甚シク發生セシニ際シ尙此愚ヲ演スルモノアリ爲メニ屢命令ヲ發
 シテ之ヲ戒メ神官僧侶其他農民中所附セラレタルモノ數十名ノ多キヲ出シタルヲ
 以テ爾來ハ殆其弊ヲ一掃スルニ至レリ由來旱害ト風害トハ人爲ヲ以テ之ヲ防遏ス
 ルコト容易ナラス隨テ之カ記錄ノ徵スヘキモノ少キモ虫害ト病害トニ至リテハ間
 々記錄ノ存スルモノアリ而テ維新以前ニ於ケル狀況ハ漠トシテ明瞭ナラスト雖ト
 モ左ニ其以後ニ於ケル梗概ヲ擧ク

一一 蟲 害

明治七年各郡村ニ亘リ稻作ノ被害アリ其程度ハ明ナラサレトモ其原因ハ風水蟲ノ
 三害ニ罹リタルモノニテ實地ノ作況ヲ檢見シ以テ貢租ヲ輕減セルノ事實アリ同十
 一年第六大區^{三野郡}地方ニ於テ稻及棉ノ害蟲發生シ其被害甚シカリシ十四年七月十
 六日各町村ニ示達シ町村會ノ決議ニ依リテ害蟲驅除ノ方法ヲ確定セシメ十九年一
 月二十九日田圃耕作物害蟲豫防及驅除規則ヲ發布セリ二十五年ニ氣候適順シテ稻
 作豐饒ナリシカ二十八年ニハ地蠶發生シテ蠶豆菜種桑甘蔗ヲ害セシコト甚シク二
 十九年三月二十四日法律ヲ以テ害蟲驅除豫防法ヲ發布セラレ續テ同三月二十九日
 省令ヲ以テ之カ取扱手續ヲ設ケタリ三十年七月ニ至リ縣下各地ノ稻田ニ浮塵子發
 生シ漸次繁殖シテ稀有ノ慘狀ヲ呈セリ時ノ知縣德久恒範深ク之ヲ憂ヒ屢々命令ヲ
 發シ若クハ官吏ヲ分遣シテ驅除ノ方法ヲ指示セシメ或ハ驅除ノ期間ヲ定メ或ハ學
 生ヲシテ驅除ニ從事セシメ或ハ迷信者ヲ戒防シ神道各派ノ教導職ニ對シテ嚴ニ其
 注意ヲ促シ或ハ驅除用油ノ共同購入ヲ爲シ或ハ命令違反者ヲ所罰スル等有ラユル
 手段ヲ盡シテ之カ驅除ニ努力セリ然レトモ農家ハ當時尙害蟲ノ恐ルヘキヲ知ラサ
 ル者多ク或ハ勞力費用ヲ厭ヒ或ハ驅除用油ノ稻ニ有害ナランコトヲ慮リ或ハ驅除
 ノ却テ稻ノ生育ヲ害センコトヲ恐レ之カ爲メ其方容易ニ行ハレサリシヲ以テ結局

左ノ如ク著シキ減收ヲ見ルニ至レリ

自明治廿五年至同廿九年五ヶ年平均米ノ收穫

五拾貳萬七千五百六拾五石

同三十年米ノ收穫

參拾七萬貳千七百七拾五石

差引減收高

拾五萬四千七百九拾石

爾來浮塵子ノ甚シク發生セシコトナキニ非ラスト雖トモ農家ハ三十年ニ於ケル大損害ニ鑑ミ官署ノ勸誘ヲ待タス進テ之カ驅除ニ從事セルヲ以テ今日ニ至ル迄甚シキ害アリシヲ見ス又苗代ハ從來面積廣キ苗床ヲ作り來リシカ害蟲驅除ニ不便多キヲ以テ之ヲ短冊形ニ改良セントシ明治三十四年八月廿一日縣令ヲ發布シ爾後全ク其形狀ヲ一變セシヲ以テ爾後大ニ驅除ニ便ナルニ至レリ又明治三十五年香川郡池西村及三豐郡財田村等ニ於テ稻ノ害蟲三化性螟蟲ヲ發見セリ該蟲ハ右兩村ノ外木田郡三谷村ノ如キ從來之カ發生アリシヲ疑ハスト雖トモ其三化性ナリシコトヲ發見セシハ同年ヲ以テ始トス爾來年ト共ニ益々繁殖シ今ヤ木田郡二香川郡八綾歌郡六仲多度郡十一三豐郡十四合計四十一ヶ町村ノ多キニ亘レリ之カ驅除ニ付テハ採卵捕蛾其他莖株ニ蟄居スル原虫ヲ捕殺シ或ハ株切株燒若クハ株ノ澍水投入ヲ行フ

等諸種ノ方法ニ依リテ年々之カ驅除ニ努メタリト雖モ其效果ノ見ルヘキモノ尠ク終ニ財田村ノ如キハ三十七年頃ニ至リテ被害十分ノ六七ニ達スルモノアルニ至レリ茲ニ於テ縣廳ハ一府之カ督勵ヲ嚴ニシ大ニ驅除ニ努メタルノ結果三豐郡ヲ除クノ外ハ漸次其被害ヲ減スルノ傾向ヲ示セリ此他古來ニ化螟蟲椿象螟蛉苞蟲象鼻蟲蟲蠶等ノ發生アリ就中ニ化螟蟲ハ年トシテ之カ發生ヲ見サルコトナク被害亦少カラスト雖トモ他ハ未タ前者ノ如ク大害ヲ加ヘタルモノナシ右ノ外麥ニ針金蟲蟻蝻アリ桑ニ金姑蚧尺蠖天牛葉卷蟲蚜蟲介殼蟲アリ果樹ニ綿蟲天牛象鼻蟲果蠹蝨蠅蠅葉卷蟲介殼蟲蚜蟲アリ蔬菜ニ蚜蟲螟蛉夜盜蟲瓜守サルハムシ金龜子等アリ就中果樹及桑ノ天牛介殼蟲果樹ノ綿蟲等ハ被害ノ最モ甚シキノナリト雖トモ未タ該樹ノ栽培多カラサルヲ以テ一般ノ注意亦周到ナラス從テ既往ニ於ケル被害ノ實況ヲ調査スルニ山ナシ

三 病 害

農作物ノ病害中古以來多ク發生セルモノハ稻ノイモチ病葉枯病稻麴病萎縮病麥ノ葉澁病班葉病立枯病黑穗病蠶豆ノ銹病茄子ノ立枯病青枯病瓜類ノべト病葉菜類ノ根瘤病白サビ病果樹中桃ノ縮葉病柑橘ノ煤病梨ノ葉銹病葉脈病桑ノ萎縮病等トス

然レトモ桑果樹蔬菜等ニ就テハ之カ記録ノ微スヘキモノナク病名ノ如キモ區々ニシテ一定セルモノ少カリシカ如シ又稻作ニ在テハ明治廿四年大川郡鴨部村ニ萎縮病ヲ發生シ被害反別參百四拾八町余歩ニ及ヒタル事實アリ「イモチ」病ハ山間諸村ニ於テ近時益繁殖シ多クハ「穗首イモチ」節、黒イモイニシテ其被害甚シク撰種肥料ノ配合澆水等注意ニ依リ之カ豫防ヲ勸誘セリ然レトモ沿海地方ニ於テハ未タ該病ノ爲ニ甚シキ被害ヲ蒙リタルモノ少シ麥ノ葉澁病ハ明治三十六年ニ於テ甚シク發生蔓延シ外國種大麥小麥ノ僅ニ試作セラル、モノヲ除クノ外一トシテ之カ害ヲ被ラサルモノナク爲メニ殆ント種子ニ窮スルノ狀況ヲ呈セリ其損害左ノ如シ

自明治三十一年至同三十五年五ヶ年間各種麥ノ平均收穫高

四拾九萬〇八百參拾參石

同三十六年同上收穫高 貳拾貳萬六千五百九拾四石

差引損害高 貳拾六萬四千貳百參拾九石

以上ノ外稻ノ「イモチ」病、葉枯病、稻麴病、麥類ノ黒穗病、蠶豆ノ銹病等年トシテ多少ノ發生ヲ見サルコトナシト雖トモ其被害未タ前者ノ如ク甚シキモノナク隨テ記録ノ微スヘキモノナシ

蠶業

一 蠶業ノ獎勵

縣下蠶業ノ起源ハ明瞭ナラスト雖トモ其古來ヨリ獎勵セシハ疑ヲ容レサル所ナリ藩政時代ニ在リテハ眞綿稅ト稱シ畑地ノ畦畔ニ賦稅スルノ制アリ是畦畔ヲ利用シ栽桑養蠶ノ業ヲ獎勵スルノ目的ニシテ眞綿ノ現品ヲ徵收シ來リシカ其後之ヲ銀納ニ改メタルヲ以テ桑樹ヲ栽植スルモノ漸次減少スルニ至レリ維新後ニ於テ之カ保護獎勵ノ爲メ明治五年二月蠶種製造者ニ免許鑑札ヲ下附シ同年七月高松東濱ノ内松島木村惣平古新町水原利七郎畑屋町高木甚藏丸龜農人町高畑竹藏四人ニ養蠶世話係ヲ命シ養蠶希望者ハ右四人ノ者ヨリ教授ヲ受クヘキ旨ヲ示達ス同六年西讃地方ニ於テ血稅問題ニ關シ頑民ノ暴動起リ官署ノ行動ニ反對スルノ結果其害桑園ニ及ヒ隨テ種々ノ浮說ヲ流傳シ之カ飼育踴躍セル者アリシヲ以テ屢告諭ヲ發シテ之カ勸誘ニ努メタリ七年名東縣高松支廳内監獄近傍舊縣廳跡東一番長屋裏舊獄屋跡内町小學校裏舊玉井屋敷跡栗林公園内等ニ桑苗ヲ仕立テ之ヲ希望者ニ拂下タリ十九年ノ頃耕地ノ地押調査アリ畦畔ニ桑茶等ヲ栽培スルモノハ之ヲ本地ニ量入スヘ

ク命シタルヲ以テ古來眞綿税法ヲ以テ獎勵セシ桑樹モ茲ニ全ク拔除セラレタルハ
 深ク遺憾トスル所ナリ又二十一年三月七日養蠶傳習所規則ヲ發布シ同時ニ高松ニ之
 カ傳習所ヲ設置シテ生徒十二名ヲ養成シ同年四月十七日縣令ヲ以テ蠶絲業取締規
 則ヲ設ケ二十四年度ヨリ區域ヲ定メテ季節養蠶巡回教師九名ヲ設置セシメ二十八
 年度ヨリ地方税ヲ以テ各郡役所ノ區域毎ニ金貳百四拾圓ヲ補助シ常設蠶業教師一
 名宛ヲ置カシム三十年一月二十二日桑苗買入補助手續ヲ定メ金四千圓ノ豫算ヲ以
 テ之カ補助ヲ爲シ三十一年度地方税ヲ以テ補助シ養蠶傳習所ヲ設置セシム等專ラ
 之カ獎勵ヲ加ヘタルノ結果年々發達ノ傾向ヲ示セリ而シテ三十二年度ヨリハ各郡
 常設巡回教師ヲ發シテ縣廳ニ一名ノ巡回教師ヲ設置シ同時ニ稚蠶飼育養蠶傳習若
 クハ蠶業巡回教師雇入ニ對シ一郡百五拾圓宛ノ補助ヲ爲シ三豐郡萩原村西庄園ニ
 補助ヲ給シテ生徒ノ養成ヲ委託シ三十三年度ヨリ縣廳巡回教師及郡補助金ヲ廢シ
 三十四年度ヨリ蠶業巡回講習ヲ開始シ且三十六年度ヨリ蠶業獎勵費トシテ縣農會
 ニ補助金ヲ交付シ同會ハ之ヲ以テ各郡ニ養蠶傳習所又ハ稚蠶共同飼育所等ヲ設置
 セシメ一面ハ同會苗圃ニ於テ桑苗ヲ栽培シ時價ニ對スル半額ヲ以テ之ヲ配付スル
 等銳意獎勵ニ努メタリ然レトモ其方法宜シキニ適セサルモノアリ投機的蠶業者ノ

間々失敗ヲ重ムルモノアリ爲メニ其發達頗ル遲緩ニシテ未タ隆盛ノ域ニ達セサル
 ヲ遺憾トス今明治十七年以來ノ統計ヲ示セハ左ノ如シ

年次	桑園反別			收 入			合 計
	桑園反別	見積反別	合計反別	春 蠶	夏 蠶	秋 蠶	
明治十七年	町						
同十八年	町						
同十九年	町						
同二十年	町						
同二十一年	町						
同二十二年	町						
同二十三年	町						
同二十四年	町						
同二十五年	町						
同二十六年	町						
同二十七年	町						
同二十八年	町						
同二十九年	町						
同三十年	町						
同三十一年	町						
同三十二年	町						

年次	桑園反別			收繭高			合計
	桑園反別	見積反別	合計反別	春繭	夏繭	秋繭	
同三十三年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同三十四年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同三十五年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同三十六年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同三十七年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同三十八年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同三十九年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同四十年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇
同四十一年	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇	一、九〇〇	一、一〇〇	三、〇〇〇	二〇、〇〇〇

一 蠶種検査

蠶種ノ検査ハ明治十九年八月十七日農商務省令第九號蠶種検査規則ヲ發布セラレタルニ起レリ爾來毎年十月ヨリ十二月迄ノ間農商務省西ヶ原蠶業試験場修業者一名ヲ検査員ニ採用シ検査所ヲ縣廳内ニ置キテ原種用種ノ検査ヲ行ヘリ然レトモ蠶業ノ發達ヲ計ラントセハ單ニ原種ノ検査ニノミ依頼スヘカラサルヲ以テ同二十八年六月廿一日縣令ヲ以テ香川縣蠶種取締規則ヲ發布シ同期間ニ於テ検査員二名ヲ

置キ原種用種及製絲用種ノ検査ヲ行ヘリ三十年三月十九日法律ヲ以テ蠶種検査法ノ發布セラレシヨリ蠶種蠶及繭等ニ就キ之カ検査ヲ爲セリ三十八年二月十五日法律ヲ以テ蠶病豫防法ヲ發布セラレ同時ニ蠶種検査法ヲ廢止セラレタルヲ以テ同年度ヨリ蠶病豫防吏員二名ヲ置キ縣廳内ニ事務所ヲ常設シテ各種ノ蠶病ハ勿論蠶蛆等ニ就テモ亦嚴ニ之カ取締ヲ爲スコト、ナレリ今蠶種検査法施行以來明治四十一年ニ至ル迄検査セシ成蹟ヲ擧クレハ左ノ如シ

蠶種製造戸數並ニ掃立收繭量

年次	戸數	掃立收繭量	收繭量
明治三十年	九八	六、一二二、〇〇	五二、七九一
同三十一年	一〇八	七、五九九、〇〇	五二、七二五
同三十二年	一〇八	九、九一八、〇〇	七三、五八九
同三十三年	一〇四	三、〇〇〇、〇〇	六八、二六八
同三十四年	一〇四	一、三三三、〇〇	四一、〇七六
同三十五年	一〇三	一、二九八、〇〇	四九、七〇三
同三十六年	一〇三	一、五三三、〇〇	四二、九六六
同三十七年	一〇三	一、五三三、〇〇	四二、九六六
同三十八年	一〇三	一、五三三、〇〇	四二、九六六
同三十九年	一〇三	一、五三三、〇〇	四二、九六六
同四十年	一〇三	一、五三三、〇〇	四二、九六六
同四十一年	一〇三	一、五三三、〇〇	四二、九六六

蠶種製造高及病毒歩合

年次	製糸川製造高	原種川製造高	同上病毒歩合
明治三十年	二、七〇二	三二、六一七	一、五九〇
同三十一	二、〇九九	三六、三八五	〇、四三
同三十二	一、七二五	三九、〇九九	〇、五〇
同三十三	二、四九〇	三四、三二九	〇、三九
同三十四	一、四六六	二六、一一二	二、四〇
同三十五	九五八	二二、三三二	一、〇八
同三十六	一、一一七	二八、三三二	一、二〇
同三十七	一、一七六	一九、六四二	一、九五
同三十八	七〇七	七、八六四	〇、五二
同三十九	六九二	一四、八四五	一、〇三
同四十	一、四九三	四二、八八四	五、五五
同四十一	三四八	一六七、七一三	五、〇〇

第十一農家ノ副業

縣下農家ノ副業ハ記録ノ微スヘキモノナク隨テ其詳細ヲ知ルニ由ナシ然レトモ棉作ノ尙盛ナリシ時代ニ在テハ之ヲ以テ絲ヲ紡キ木綿織物ヲ爲ス者甚タ多カリシカ如シ然ルニ明治七八年ノ頃ヨリ機械紡績ノ業漸次發達スルニ伴ヒ紡糸ノ業自ラ

廢絶ニ歸セリ又三豊郡地方ニアリテハ古來細葉蓆ノ製造ヲ爲ス者多ク沿海製鹽ノ業盛ナル地方ノ附近ニ在テハ鹽俵ノ製造ヲ營ム者多ク今猶繼續セリ又同廿七八年ノ頃ヨリ麥稈具田製造ノ業起リ原料ノ豊富ト販路ノ廣汎ナルトハ自ラ之カ發達ヲ促シ今ヤ全管ヲ通シテ殆ト之カ産出ヲ見サルノ地ナク産額年ニ増加シテ縣下ノ一大物産トナルニ至レリ今同三十二年以來ニ於ケル之カ産額及價額ヲ擧クレハ左ノ如シ

年次	製造戸數	産額	價額
明治三十二年	一、三九三	一二四、八七〇	六二、五五〇
同三十三年	三、四六四	六六四、七七五	三三三、七五九
同三十四	七、九三三	一、三八七、二〇〇	五二七、一三六
同三十五	九、三八六	一、三四八、五二四	六七四、二六二
同三十六	一〇、四九五	一、四七四、七六〇	九四三、九四七
同三十七	一五、五七九	一、八六三、三五七	一、〇六二、一一三
同三十八	一九、一六五	三、九九六、五八七	一、六三六、五六八
同三十九	二一、七三九	四、〇七三、四八四	一、二四八、二八七
同四十	二六、九八五	四、一〇四、〇九六	一、四五三、九〇七
同四十一	二七、〇八七	三、一八三、九三〇	九一七、〇八三

勸業統計

勸業ニ關スル調査ハ明治五年ニ於テ始メテ其雛形ヲ定メ之カ調査ヲ行ヘリ當時ハ其方法頗ル粗雜ナリシノミナラス民間ニ於テモ徵稅ノ資料タランコトヲ慮リ概ネ虛偽ノ申立ヲナシタルヲ以テ殆ント事實ト認ムベキモノナシ然レトモ同廿二年十月十三日ヲ以テ統計様式ヲ改定シ廿七年八月十四日訓令ヲ以テ勸業統計報告規程ヲ設シヨリ漸次調査ノ改善ヲ見ルニ至レリ而シテ其事實ハ概ネ各項ノ下ニ詳記セルヲ以テ茲ニ之ヲ省略ス

畜産

一 概説

縣下ノ畜産亦其山來明瞭ナラサレトモ往古ハ全ク役用ヲ目的トセルモノニシテ其種類ハ畜牛ヲ第一トシ馬匹之ニ亞キ羊豚ノ如キハ殆ント之ヲ飼養スル者アラサルガ如シ維新後ニ於テハ明治五六年ノ頃名東縣ニ於テ屢々畜産ニ老練ナル者ヲシテ巡回講話セシメ以テ牛豚二者ノ蕃殖ヲ獎勵シ同十九年一月二十九日種牡牛馬取締規則ヲ發布シ爾來屢々之ヲ改正シ以テ其取締ヲ嚴ニセリ又本縣ハ畜牛ノ蕃殖餘力甚タ多ク明治二十九年ノ統計ニ依レハ牝牛總數貳萬貳千五百八拾頭ニ對シ年内生

産ノ仔牛僅々貳千貳百七拾四頭ニ過キス生産餘力尙貳萬餘ノ多キヲ有シ遺利ノ大ナルモノアルヲ以テ之カ蕃殖ヲ圖ルト同時ニ又牛種ヲ改良セントシ三十年以來縣有牡牛ヲ飼養シテ之カ種付ヲ勸誘シ又種豚ヲ飼養スル等専ラ之カ獎勵ニ努メタルヲ以テ近時漸ク之カ發達ヲ見ルニ至レリ同二十四年以來ニ於ケル家畜ノ總數並ニ其生産數ヲ擧クレハ左ノ如シ

牛

年次	年 末		計 數	生 産 仔 牛
	牝	牡		
明治二十四年	二二、三五九	九、二二一	三一、四八〇	
同二十五年	二二、九四二	九、七九八	三一、七四〇	
同二十六年	二二、四四八	一〇、二〇〇	三一、六四八	
同二十七年	二二、二六六	九、五八八	三一、九五四	一、一八七
同二十八年	二二、六九五	九、四五二	三一、一四七	一、八二〇
同二十九年	二二、五八〇	一〇、六五三	三一、二三三	二、二七四
同三十年	二二、九五二	九、一三五	三一、〇八六	二、六四六
同三十一年	二二、二五二	九、一三〇	三一、三八二	二、九八六
同三十二年	二二、三九七	八、八四二	三一、二三九	三、〇二六
同三十三年	二四、四九二	八、三九四	三一、八八六	三、九八二

年次	北年		末		現		在		計數	生產仔牛
	北	年	末	現	在	計	數			
明治三十四年										
同三十五年			二五、七九二		八、九九六				三四、七九一	四、〇〇七
同三十六年			二四、五八六		八、八六五				三三、四五二	四、一三三
同三十七年			二七、六四六		八、四七三				三六、一九九	三、六三五
同三十八年			二六、八〇五		七、六四五				三四、四五〇	三、八三三
同三十九年			二六、八九〇		六、四三三				三三、三三二	三、二九五
同四十年			二六、三〇〇		六、九五三				三三、二五三	三、五一一
同四十一年			二六、三八六		六、二五八				三二、六四四	三、八一四
同四十二年			三五、二五六		二八、〇八七				七、一六九	四、三八五

四三二

馬

年次	北年		末		現		在		計數	生產仔馬
	北	年	末	現	在	計	數			
明治二十四年										
同二十五年			四五二		九八四				一、四三五	
同二十六年			四六二		九二一				一、三八四	
同二十七年			四五二		八四〇				一、二九一	
同二十八年			四四〇		七四六				一、一七七	
同二十九年			四六六		六二五				一、〇八一	

年次	北年		末		現		在		計數
	北	年	末	現	在	計	數		
同三十年			四四四		六八二				一、二二六
同三十一年			四九七		四七二				九六九
同三十二年			四九二		五〇七				九九九
同三十三年			四八〇		六七二				一、一五二
同三十四年			三七八		七五二				一、一三〇
同三十五年			三四〇		九〇三				一、二四三
同三十六年			三一六		一、〇四三				一、三五九
同三十七年			三〇八		八一				一、一九
同三十八年			三三二		一、〇一五				一、三四七
同三十九年			三〇〇		一、四九三				一、七九三
同四十年			三五二		一、五五四				一、九〇六
同四十一年			一九一五		三〇〇				一、六一五

豚

年次	北年		末		現		在		計數
	北	年	末	現	在	計	數		
明治三十二年			五一		三六				八七
同三十三年			九四		三三				一二六
同三十四年			八五		六七				一五二
同三十五年			八八		八五				一七三
同三十六年			八四		五七				一四一

四三三

年次	年 末		現 在		計 數
	牝	牡	牝	牡	
明治三十七年	五六	三六	三六	九四	
同三十八年	一五四	六九	六九	二二三	
同三十九年	二九五	一四五	一四五	四四〇	
同四十年	五七五	二四三	二四三	八一八	
同四十一年	二七〇	一四三	一四三	四一三	

一 主要畜産

イ 牛

牛ハ古來山田那庵治村ニ於テ良種ヲ出シ爲メニ庵治牛ノ名稱ヲ博スルニ至レリ然レトモ其沿革ニ至リテハ之ヲ調査スルニ山ナシ此他縣下各地多少ノ生産アリシト雖トモ僅々タル員數ニ過キス多クハ但馬因幡伯耆備中地方ヨリ輸入スルモノニテ專ラ役用ヲ主トシ傍ラ肥料ヲ得ントスルヲ以テ主眼トセリ往古ハ牝牛ヲ飼養スルモノ多ク牡牛ノ如キ僅ニ十中ノ三ヲ出サ、リシカ寛政年間己降製糖業ノ一時ニ旺盛ヲ極ムルニ從ヒ搾役ノ必要ヨリ牡牛ノ數ヲ増加シ明治初年ノ頃ヨリ糖業ノ漸次頽廢スルニ伴ヒ復タ牝牛ノ數ヲ増加スルニ至レリ然レトモ之ヲ以テ蕃殖ノ用ニ供

スルモノ少ナケレハ其遺利極メテ大ナルモノアリ殊ニ其体軀矮少ニシテ膂力乏シク加フルニ社會ノ進歩ニ伴ヒ乳肉ノ需用増加シ勞力ノ補充トシテ亦大ニ之カ改善増殖ノ必要ヲ認メタルヲ以テ爾來ハ各種ノ施設ヲナシ以テ之カ改善發達ヲ企劃セリ即チ明治五六年ノ頃展々斯業ニ經驗アル者ヲシテ巡回勸誘ヲ爲サシメ三十四年ノ頃ヨリ雜種牛ヲ輸入シ十七年ニ至リテハ其數八十四頭トナレリ同二十年農商務省ヨリ改良牡牛第二駒場號ヲ借用シテ種用ニ供シ二十三年之カ下附ヲ得同一月三十日無代價ヲ以テ之ヲ那珂多度郡ニ下與シ從來ノ目的ヲ繼承シテ專ラ種付ニ供用セシメタリ三十年六月六日縣令ヲ以テ種牝牛貸與規則ヲ設ケ種牝牛六頭ヲ置キテ汎ク民間ニ貸與シ以テ益々之カ改良蕃殖ヲ計レリ然レトモ使用其適度ヲ誤リ種牛ヲシテ甚タシク衰弱セシメタルヲ以テ三十五年度ヨリ之ヲ縣ノ直營トナシ香川郡栗林村本縣農事試驗場内ニ畜舎ヲ設ケテ之ヲ飼養シ同所ニ於テ種付スルノ外時々巡回種付ヲ行ヘリ其後縣會ノ決議ニ依リ三十八年度ヨリ之レカ飼養料月額金九圓ヲ附シテ農會又ハ農事試驗場ニ貸付シ嚴ニ之カ種付管理ノ責ニ當ラシメタリ而シテ當時購入セシ種牛ハ漸次衰弱又ハ斃死セシヲ以テ其後時々之ヲ補缺購入シ三十九年度ヨリハ更ニ之ヲ増加シ一郡一頭宛ノ割合ヲ以テ貸付スルコト、ナレリ今縣

有種牡牛創設以來ノ種牡牛及之ニ依リテ蕃殖セシ仔牛ノ數ヲ舉クレハ左ノ如シ

種牡牛

號	名	種類	買入代金	買入年月日	賣却年月日	賣却理由
狹	貫	ホルスタイン	四百五拾圓	明治三十年五月	明治三十三年七月	衰弱
屋	島	ホルスタイン	四百參拾五圓	明治三十年五月	明治三十八年七月	衰弱
玉	藻	角	貳百八拾圓	明治三十年五月	明治三十三年七月	衰弱
紫	雲	角	貳百六拾五圓	明治三十年五月	明治三十八年八月	老衰
薄	雲	ホルスタイン	貳百五拾圓	明治三十年六月	明治三十四年五月	衰弱
旭	田	ホルスタイン	貳百九拾圓	明治三十年六月	明治三十一年五月	疾病
龍	田	ホルスタイン	參百圓	明治三十年七月	明治三十三年五月	疾病
第九	エキマブレス	エーアシヤイナ	參百圓	明治三十五年十月		疾病
舞	鶴	ホルスタイン	四百五拾圓	明治三十五年十月	明治四十年二月	疾病
第十一	エキスプレッス	エーアシヤイナ	參百圓	明治三十七年十月		疾病
第十二	エキスプレッス	ホルスタイン	四百五拾圓	明治三十九年十月		疾病
登	岐	ホルスタイン	四百五拾圓	明治三十九年十月		疾病

縣有種牛蕃殖數

(三十八年八月調)

種	牡牛	使	用	期	間	蕃	殖	仔	牛	數
見	島	ホルスタイン	五	百	圓	明治三十九年十月				一
高	野	ホルスタイン	四	百	五拾圓	明治四十年一月				四
大	島	ホルスタイン	參	百	六拾圓	明治四十年十月				四
第六	馬	ホルスタイン	四	百	參拾圓	明治四十一年五月				三
岩	手	ホルスタイン	參	百	六拾圓	明治四十一年五月				三
紫	雲	角	貳	百	八拾圓	明治三十年五月				四
屋	島	ホルスタイン	四	百	參拾五圓	明治三十年五月				三
薄	雲	ホルスタイン	貳	百	五拾圓	明治三十年六月				三
旭	田	ホルスタイン	貳	百	九拾圓	明治三十年七月				二
龍	田	ホルスタイン	參	百	圓	明治三十年七月				三
第十一	エキスプレッス	エーアシヤイナ	參	百	圓	明治三十七年十月				三
第十二	エキスプレッス	ホルスタイン	四	百	五拾圓	明治三十九年十月				二
登	岐	ホルスタイン	四	百	五拾圓	明治三十九年十月				二
幼	齡	飼育中								七
三	年	十	月							七
十	年	一	月							一
十	年	一	月							八
三	年	十	月							〇
三	年	十	月							八
八	年	三	月							九
八	年	三	月							二
三	年	二	月							四
三	年	三	月							四
三	年	三	月							四

右ノ外民有種牛並ニ此等縣有種牛ニ依リ蕃殖セル仔牛ノ數ヲ舉レハ左ノ如シ

年次	内國種	雜種	外國種	合計
二十七年	一、一五六	三〇	一	一、一八七
二十八年	一、七六二	四〇	一	一、八三〇
二十九年	二、一四四	一〇五	二五	二、二七四
三十年	二、三二三	三三二	一	二、六四六
三十一年	二、四四三	四六五	七八	二、九八六
三十二年	二、三五六	六六四	六	三、〇二六
三十三年	二、九三六	一、〇三五	一一	三、九八二
三十四年	二、九五七	一、〇三〇	二〇	四、〇〇七
三十五年	二、六九六	一、四一五	二	四、一一三
三十六年	一、〇八五	二、五二九	二一	三、六三五
三十七年	九一一	二、七六七	五四	三、八三二
三十八年	五九一	二、六九四	一〇	三、二九五
三十九年	四七五	三、〇一〇	二六	三、五一一
四十年	五〇七	三、二八二	二五	三、八一四
四十一年	一	五三	一四	六八

口馬

馬ハ古來多クハ縣外ノ輸入ニシテ縣内産出ノモノ極メテ稀ナリシカ如シ寛永二十年時ノ高松藩主軍馬蕃殖ノ目的ヲ以テ地ヲ寒川郡大串崎ニトシ茲ニ牧場ヲ設ケ與

州七戸八戸尾花澤等ヨリ種牡馬ヲ輸入シテ之カ蕃殖ヲ試ミ享和元年ヨリ一厩之カ改良増殖ニ務メタルモ其産出少ナクシテ濬用ヲ充スニ至ラス終ニ廢場ニ歸セリ又明治六七年ノ前未タ人力車ヲ使用セサル時ニアツテハ馬背ヲ借ルノ旅客少カラス隨テ馬匹ノ數稍ヤ多カリシモ爾來年ト共ニ其數ヲ減シ十四五年ノ頃競馬ノ流行セシヨリ幾分其數ヲ増加セシモ固ヨリ僅々タルノ數ニ過キサリキ明治三十年普通寺ニ第十一師團ヲ設置セラレシヨリ毎年多少ノ廢馬ヲ生シ之カ拂下ヲ受クル者アルヲ以テ漸次其數ヲ増加シ往々之ヲ農耕ニ供スルモノアルニ至レリ又同三十四年四月二日法律ヲ以テ馬匹去勢法ヲ發布セラレシモ未タ之ヲ施行セラル、ニ至ラサリシカ三十七年日露開戦ニ際シ大ニ馬匹ノ需用ヲ増加シ殊ニ之カ去勢ノ必要ヲ認メタルヲ以テ政府ハ之ニ獎勵金ヲ給シテ大ニ之カ勸誘ヲ爲セリ然レトモ畜主ノ多クハ未タ去勢ノ必要ヲ認ムルモノ少ク且一頭ニ對スル獎勵金僅ニ參圓ニ過キササルヲ以テ畜主ハ萬一廢斃馬タランコトヲ慮リ之カ勸誘ニ應スル者少ナカリシ故ニ三十七年度ヨリ縣費ヲ以テ技術員費器具等ヲ支辨スルノ外評價格ニ對スル賠償金ヲ給スルコト、ナシ政府ニ於テモ亦三十八年度ヨリ參拾圓以内ノ損失手當ヲ給スルコト、ナシ之カ獎勵ニ努メタルヲ以テ漸次其數ヲ増加シ三十七八兩年度ニ於テ左ノ

如ク去勢スルニ至レリ

四四〇

郡市名	三十七年	三十八年	三十九年	四十年	四十一年	計
大川郡						
木田郡						
小豆郡						
香川郡						
綾歌郡						
仲多度郡						
三豊郡						
高松市						
丸龜市						
合計	二〇六六五三	三七四二	五九三七二〇	八九五六一六	一一二八二	三二六一八二六

ハ 豚

豚ハ明治四五年ノ頃ヨリ一時ハ稍ヤ蕃殖ノ傾向アリシカ當時未ク之ヲ食用ニ供スルモノ少ク生豚ノ販路亦多カラサリシヲ以テ飼育者ハ爲メニ甚クシク困難セシカ如シ現ニ同六年九月三十一日ノ夜山田郡西瀧元村ノ内浦生海邊ニ豚三十三頭ヲ放棄セシ者アリシヲ以テ名東縣ハ同十月十五日之ヲ管内ニ告知シ其所有者ヲ搜索セシ事實アリ其後三十五年ノ頃三豊郡仲多度郡等ニ於テ之ヲ飼育スル者増加セシモ尙未ク其需用少ク價格隨テ低廉ナリシヲ以テ之ヲ飼育スル者漸次減少セリ而シテ

從來飼育セルモノハ其種類善良ナラサリシヲ以テ三十六年度ヨリ縣會ノ決議ヲ經テ農事試験場ニ種豚ヲ飼育スルコト、ナリ農商務省七塚原種牛牧場ヨリ種豚バクシヤ種ヲ購入シ四十一年度ヨリ之ヲ縣農會ニ附與シ專ラ之カ蕃殖普及ヲ企圖セシヲ以テ爾來漸次良種ノ蕃殖ヲ見ルニ至レリ即左ノ如シ

郡市名	三十七年		三十八年		三十九年		四十年		合計
	牝	計	牝	計	牝	計	牝	計	
大川郡									
木田郡									
小豆郡									
香川郡									
綾歌郡									
仲多度郡									
三豊郡									
高松市									
丸龜市									
合計									

外ニ四十一年ニ於テ縣農事試験場ヨリ縣農會ヘ牝二頭牡五頭無價譲渡セリ

四四一

二 家 禽

家禽ハ古來農家副産トシテ之カ飼育ヲ爲セルモノニシテ雞ヲ以テ主トシ家鴨之ニ亞キ鶩吐綬鷄ノ如キハ頗ル僅々タルノ數ニ過キス其目的ハ卵肉ニ在リテ愛玩用ニ供スルモノ極メテ少シ就中雞ハ往時内國種ノミナリシモ近時外國種又ハ雜種ヲ増加シ四十年度ヨリ縣農會ニ種雞ヲ設置シ大ニ之カ繁殖配付ヲ計リタルヲ以テ爾來漸次發達進歩ノ見ルヘキモノアルニ至レリ而シテ明治三十三年以來ノ家禽及卵ノ産額ヲ擧クレハ左ノ如シ

年次	雞	家鴨	其 他	計
明治三十二年	七九、〇〇二	六〇〇	一、一五五	八〇、七五七
同三十三年	一〇八、〇六一	一、六四一	一、一四五	一一〇、八四七
同三十四年	一二八、四四一	二、〇六八	一、〇七〇	一三一、五七九
同三十五年	一四四、一四〇	一、六〇一	三、二〇四	一四五、七四一
同三十六年	一三六、四五〇	一、五一一	一〇、九六三	一四二、八八四
同三十七年	一三〇、六〇九	一、七四〇		一四三、〇八四
同三十八年	一七四、九四六	四、二五〇		一七九、一九六
同三十九年	二六八、二五九	六、八七六		二七五、一三五
同四十年	二九七、八二八	三、五七五		三〇一、四〇三
同四十一年	四二、七〇〇	三五六		四三、〇五六

雞 卵

年次	卵ノ個數
明治三十二年	三、〇五九、三一〇
同三十三年	四、三三〇、〇六六
同三十四年	四、一七八、二七〇
同三十五年	三、九四六、一〇三
同三十六年	四、四四七、四五四
同三十七年	四、七七四、二六一
同三十八年	七、二六四、〇三四
同三十九年	一一、一五五、二五一
同四十年	一〇、八九九、五二二
同四十一年	八、四六二、〇二〇

三 家畜傳染病

家畜ノ傳染病ハ古來如何ナル歴史ヲ有スルカ今得テ稽フヘカラスト雖トモ維新後ニ至リテハ明治六年牛疫リンドルベスト流行シ多クノ斃牛ヲ出セリ同九年鶴足郡長炭村大字炭所東ニ於テ同病ヲ發生シ同十八年ヨリ十九年ニ亘リテ炭疽流行シ多度郡白方村外十ヶ村ニ於テ斃死又ハ撲殺セルモノ五十五頭ノ多キニ及ヘリ廿五年

大分廣嶋岡山諸縣ニ於テ牛疫流行シ其勢甚ク猖獗ナリシヲ以テ大ニ警戒ヲ加ヘ之
 カ豫防ニ努メタルモ同年十二月ニ至リ三野郡上高瀬ニ於テ五頭吉津村ニ於テ一頭
 ノ病牛ヲ出セリ其後多度郡其他ニ於テ續々之ヲ發生シ同月二十八日迄ニ於テ其數
 十六頭ノ多キニ達セリ二十八年十二月多度郡吉原村ニ於テ一頭同病ニ罹リ豊田郡
 柞田村ニ於テ疑病牛二頭ヲ發セシヲ以テ何レモ之ヲ撲殺シ幸ニ蔓延ヲ見ルニ至ラ
 サリキ爾來炭疽氣腫痘等ノ發生アリシモ其數僅々タルニ過キハ又四十一年七月韓
 國牛ノ輸入ニ依リテ牛疫發生シ爲メニ斃死又ハ撲殺セシモノ大川郡三十一頭木田
 郡二頭小豆郡百四十九頭香川郡三十三頭綾歌郡三十六頭仲多度郡七十七頭三豐郡
 五十一頭高松市二十五頭アリ如此ク豫防其宜キヲ得タルヲ以テ九月ニ至リ全ク之
 カ終熄ヲ見ルニ至レリ

四獸醫及蹄鐵工

畜産ノ發達ニ伴ヒ大ニ獸醫ノ必要ヲ認メタルヲ以テ明治二十一年讃岐伊豫兩國中
 牛馬飼養者ノ寄附ヲ以テ松山病院内ニ獸醫學校ヲ設立シ同年五月十七日ヨリ授業
 ヲ開始セリ爾來同校ニ於テ之カ生徒ヲ養成セシモ其數尙ホ甚ク少ク獸醫ハ三十六
 年末ノ調査ニ依レハ家畜就中牛馬六千二百四十六頭ニ對シ一名ノ割合ナルヲ以テ

到底之ニ依リテ家畜ヲ保護シ能ハサルヲ認メ明治三十七年度ヨリ縣費ヲ補助シ同年
 五月盛岡高等農林學校ニ生徒登名ヲ入學セシメ三十八年二名ヲ同校ニ一名ヲ農科
 大學實科ニ入學セシメ三十九年四月大坂府立農學校ニ三名ヲ入學セシメ以テ之カ
 養成ヲ爲セリ左ニ明治二十七年以來ニ於ケル獸醫及蹄鐵工ノ數ヲ掲ク但シ蹄鐵工
 ハ馬匹少ク之カ必要ヲ感スル多カラス隨テ其養成ヲ爲セシコトアラサリシカ如シ

年次	獸醫	蹄鐵工
明治二十七年	五	四
同二十八年	五	四
同二十九年	五	四
同三十年	五	四
同三十一年	五	四
同三十二年	五	四
同三十三年	五	四
同三十四年	五	四
同三十五年	四	四
同三十六年	三	五
同三十七年	二	八
同三十八年	二	九
同三十九年	四	五
同四十年	六	四
同四十一年	六	四

五 牧 草

家畜ノ改良増殖ヲ圖ラント欲セハ勢ヒ其飼料ヲ撰擇セサルヘカラス殊ニ本縣ハ土地狹クシテ飼料豐富ナラス加フルニ明治三十年普通寺ニ第十一師團ヲ設置セラレテヨリ馬糞用乾草ノ需用頗ニ増加シ毎年約五十万貫ノ多キヲ要スルヲ以テ益々注意ヲ要スルニ至レリ故ニ同三十七年縣費ヲ以テ牧草ノ繁殖ヲ企テ北海道及下總御料牧場等ヨリ「ホワイトクローパー」レット「クローパー」レット「チモシー」レット「ツブ」オーチヤードグラス等ノ種子ヲ仰キ或ハ之ヲ希望者ニ配付シ或ハ主務ノ官吏ヲシテ直接之ヲ路傍等ニ播下セシメ三十八年度ヨリハ縣農會ニ於テ其主旨ヲ繼續シ「ホワイトクローパー」レット「クローパー」等ノ種子ヲ購入シ前者ト同様ノ手段ニ依リテ之カ播種ヲ爲セシヲ以テ爾來漸次ニ之カ繁殖ヲ見ルニ至レリ

溜 池

本縣ノ地勢ハ前段總説ニ於テ説明セシ如ク南高ク北低ク且河川ノ流域短クシテ水勢急下スレハ更ニ常水ナク加之地質砂礫多キヲ以テ自カラ水分乾涸シ易ケレハ陂池ノ利ニ依サレハ到底耕耘ヲ爲スコトヲ得ス於是古來ノ歴史ニ徵スルモ陂池ヲ修築セシコトヲ記載スルモノ枚舉ニ遑アラス今試ニ其歴然タルモノヲ舉レハ日本後

紀弘仁十二年四月上旬言シ併空海ヲシテ萬農池ノ修築ヲ董サシム降テ寛永五年生駒高俊西島八兵衛ニ命シ滿濃三谷ノ二大池ヲ修セシメ同十三年神内池ヲ築キ其後又八兵衛ニ命シ陂池大小九十餘ヲ築カシメ正保二年松平頼重陂池四百零六ヲ創築シ天保三年松平頼恕永富池ヲ修築シ目今ニ至テ舊有ヲ併セ其數約八千四百四十餘ニ及ヒ其面積ハ殆ント三千七百五十七町餘ニシテ之カ修繕及管理ニ要スル費用モ亦尠シトセス然ルニ其管理ハ古來ノ習慣ヲ墨守シテ水掛リ總代ナル一種特選ノ世話役ニ於テ之ヲ取扱フヲ以テ其間自然ニ諸種ノ弊害ヲ醸生セルニ依リ明治二十五年本縣訓令第六十二號ヲ以テ水利組合條例施行細則ヲ設ケ水利組合ノ設置ヲ促シタルモ因襲ノ久シキ容易ニ舊慣ヲ改ムルコト難ク即今迄漸ク設置ヲ了シタルモノ則別表ニ掲クル所ノ數ヶ所ニ過キス然レモ明治三十八年以來郡市町村組合又ハ水利組合ニ於テ施設スル灌溉用溜池ノ新設及變更工事並砂防工事ニ對シ縣費ヨリ補助スル制ヲ設ケタルニ依リ漸次水利組合設置ノ數ヲ増加スルニ至ルナラン

組合名稱	組合規約認可年月日	組合區域	議員定數	費用負擔方法	組合管理者
滿濃池普通水利組合	明治二十六年五月二十二日 告示第四百二十三號	丸龜町外十八ヶ町村	四十人	各町村地價割又ハ反別割	那珂多度郡長

組合名稱	組合同約認可年月日	組合區域	議員定數	費用負擔方法	組合管理者
先代池普通水利	明治三十三年十二月十五日	仲多度郡六鄉村	二十一人	地價割トシテ徵收ス	仲多度郡六鄉村長
大野原普通水利	明治三十四年一月二十三日	三豊郡大野原村	十六人	地價割、反別割、夫役トシテ徵收ス	三豊郡大野原村長
宗和池普通水利	明治三十五年八月二十二日	大川郡相生村	八人	同前	大川郡相生村長
水利組合	明治三十二年五月十一日	仲多度郡白方村大字西白方及東白方ノ幾部	十人	地價割トシテ徵收ス	仲多度郡白方村長
水附池普通水利	明治三十二年六月十八日	木田郡井戸村ノ一部	十人	田反別割地價割トシテ徵收ス	木田郡井戸村長
二股池普通水利	明治三十二年六月十四日	郡奥鹿村大字鹿庭ノ一部	十四人		

明治三十八年ノ調査ニ係ル面積ヲ舉クレハ左ノ如シ

郡市名	總反別	堤防數	水面反別
大川郡	四七七、一三三	五七、九三二	四一九、二〇三
木田郡	八一三、八二〇	七二、三〇八	七五九、四八二
小豆郡	一、〇六一	〇、一六四	〇、九〇〇
香川郡	二六一、五四〇	二四、六七二	一三六、八六二
綾歌郡	九三九、〇八三	一一三、六一三	八二五、四六二
仲多度郡	四三九、二二二	六二、一五〇	三七七、〇六一
三豊郡	八〇三、三〇八	九一、二七五	七二二、〇五三
高松市	四、一二〇	〇、四二五	三、七〇三
丸亀市	三、七五七、三二八	四二二、五五二	三、三三四、七六〇
合計			

溜池ノ多キコト如斯殊ニ近時棉花製糖ノ業大ニ頽廢シ往時灌溉ヲ要セザリシモノ亦續々稻田ト變化シ來レルヲ以テ水利益窮乏ヲ告ケ年トシテ多少ノ修理増築ヲ要セサルコトナシ今姑ク耕地澆水ニ關スル實況ヲ叙述センニ夏時降雨多キ年ニ在テハ固ヨリ配水ニ甚シキ困難アラサルモ若シ早天數旬ニ亘リ養水稍々不足ヲ告クルニ至レハ泉水ト溜池トニ論ナク概ネ配水夫ヲ置キ耕地ノ面積ニ應ジテ日割ヲ定メ若クハ時間ヲ制限シテ専ラ之カ配水ニ從事セシムルモ愈乾涸甚シキニ至リテハ徹夜彷徨シテ安眠スルノ暇ナシ平時ニ於ケルモ河川ノ水權ハ自カラ上流者ノ手中ニ歸シ堰關ハ縱横ニ設置セシモ金錢ニ換フルニアラサレハ細流ノ水モ之ヲ他ニ讓ラサルカ故ニ末流ニ耕ス者ハ爲ニ非常ノ困難ヲ來シ僅々勞力ニ頼リテ地ヲ掘リ水ヲ求ムルモノ、外皆低頭平身以テ水權ヲ請フノ狀見ルニ忍ヒサルモノアリ然レトモ以上ハ多ク地表ノ流水ニ於テ然ルノミニシテ地下水ニ至テハ未タ深ク之ニ着眼スル者ナシ近時ニ至テ稍之ヲ利用セントスルモノアルニ至ル即チ明治三十七年仲多那六鄉村字請所外一字ニ於テ之カ利用ヲ金テ金倉川ノ下流ニ埋渠ヲ設置シ蒸汽力ニ依リテ又之ヲ汲上シ面積二十四町三反餘歩ノ畑地ヲシテ全部之ヲ稻田ト爲セルニ至ル此地ハ從來棉作地トシテ最モ有望ナリシカ明治十七年海嘯ノ災ニ罹リテヨ

リ收穫頓ニ減少シ小作料ノ如キモ其以前ニ於テ一反歩玄米一石三四斗ナリシモノ
爾來漸次下落シ其極公租ノ負擔ヲモ償フ能ハサルニ至レリ故ニ地主ハ孰レモ適當
ノ作物ヲ得テ之レカ困弊ヲ挽回セント百方焦慮セシカ爰ニ同村大字並屋ニ北川藤
吉ナル者アリ平素該地ノ農作振ハサルヲ慨シ會テ地主ト謀リ曠起之カ改善ノ法ヲ
講セントシ明治三十五年七月同郡農事試驗場ニ就キ其方法ヲ協議シ且其調査ヲ依
頼セリ時ノ場長喜テ其依頼ニ應シ銳意精査ノ結果地下水ヲ利用シ全部之ヲ稻田ト
ナスノ案ヲ立テ且耕地整理法ニ依リテ其土地ヲ整理スルコト、爲シ三十七年九月
工ヲ起シ三十八年二月ヲ以テ略其工ヲ終ヘリ爾來該地ノ旱損全ク其跡ヲ絶チ生産
力ヲ増加シ時價亦甚タシク騰貴スルニ至レリ左ニ之カ費用及成績ノ大要ヲ示サン

耕地整理面積ノ増加及地價額ノ騰貴

地目	反別	地價	筆數	一筆平均反別	實買見込價額	
					一反歩平均	總計
整理前 計畑田	反	一〇、七四〇	〇、四〇六	〇、四〇六	四、〇〇〇	
整理後 計畑田	反	八、〇六〇	〇、七七〇	〇、七七〇	一、八三三、〇〇〇	
整理前後 ノ比較	増	二、六八〇	三、三六四	〇、三六四	二、三三三、〇〇〇	
整理前 計畑田	反	一〇、七四〇	〇、四〇六	〇、四〇六	四、〇〇〇	
整理後 計畑田	反	八、〇六〇	〇、七七〇	〇、七七〇	一、八三三、〇〇〇	
整理前後 ノ比較	増	二、六八〇	三、三六四	〇、三六四	二、三三三、〇〇〇	

耕作上ニ及ホセル利便

整理前 整理後 ノ比較	耕作本道		耕作支道		合計		流水設備
	延長	面積	延長	面積	延長	面積	
整理前	六、八二六	二、〇〇〇	一、九二〇	五、〇〇〇	八、七四六	七、〇〇〇	一、八二五
整理後	一、九二〇	二、二二五	一、九二〇	九、〇〇〇	三、八四〇	九、〇〇〇	一、八二五
整理前後 ノ比較	増	二、二二五	減	三、九八〇	減	一、七五五	増

生産力ノ増加 其一

品名	數	支	出	價	價	額	品名	數	支	出	價	價	額
甘薯種子	一〇	支	出	一〇	一〇	一〇	米	二、〇〇〇	支	出	一〇	一〇	一〇
計	一〇	支	出	一〇	一〇	一〇	粟	二、〇〇〇	支	出	一〇	一〇	一〇
計	一〇	支	出	一〇	一〇	一〇	雜穀及薯類	一、〇〇〇	支	出	一〇	一〇	一〇
計	一〇	支	出	一〇	一〇	一〇	計	一、〇〇〇	支	出	一〇	一〇	一〇

品名	支出 (一反歩當)		品名	支出 (一反歩當)	
	數量	單價		數量	單價
麥種子	五斗	10.00	麥種子	五斗	10.00
肥料			肥料		
計			計		
			揚水費		10.00
			計		10.00

四五二

收支差引残額 金貳拾五圓〇〇五厘 收支差引残額 金四拾貳圓參拾四錢五厘

生産力ノ増加 其二

地目	整理前		地目	整理後	
	反別	反當收益		反別	反當收益
田	3,380	10,200	田	3,380	10,200
畑	3,280	10,200	畑	3,280	10,200
計	6,660	20,400	計	6,660	20,400
比較前後ノ			比較前後ノ		

費用支出總額

一金九拾八圓七拾參錢貳厘
 一金千六百參拾九圓六錢貳厘
 一金百參拾貳圓貳拾四錢六厘
 一金七拾八圓拾壹錢七厘
 一金拾圓六拾六錢五厘
 一金貳拾圓九拾七錢五厘
 一金貳千五百貳拾四圓五錢六厘
 一金參百九拾參圓參拾錢九厘
 一金參百九拾五圓四拾八錢六厘
 計金五千貳百九拾貳圓六拾四錢八厘
 以上ノ調査ニ依レハ耕地面積ヲ増加スルモト貳反壹畝貳拾八歩ニ過キスト雖トモ土地ノ賣買價額ヲ外進スルコト壹萬九千參百拾七圓五拾錢ニシテ耕作ノ便ヲ増加スルモ亦尠カラス而シテ生産力ノ増加ハ一ヶ年四千貳百圓五拾六錢八厘整理ニ要セシ費用ハ其總額五千貳百九拾貳圓六拾四錢八厘ニシテ僅ニ一ヶ年餘ニシテ整理費ノ全部ヲ消却スルヲ得タリ

創業費
 土工費
 護岸杭柵費
 樋管費
 井堰費
 橋梁費
 揚水場及埋渠費
 測量製圖及事務費
 雜費

米穀検査ノ成績

米穀ノ検査ハ其關スル所甚タ廣ク殊ニ因襲ノ久シキ習慣ヲ一朝ニシテ打破セントスルモノナルヲ以テ之カ施行ノ當初ニ在リテハ諸種ノ故障百出シ其困難實ニ謂フヘカラサルモノアリキ然レトモ本縣ニ在リテハ諄々當業者ヲ説テ其利害得失ヲ指示シ或ハ地主ニ説テ利益分配ノ方法ヲ講シ検査施行ト同時ニ銳意之カ改善ヲ促シタルヲ以テ早ク其實績ヲ現シ著シク市價ノ昇騰ヲ見ルニ至レリ今検査開始以來ニ於ケル検査ノ設備及其成績ヲ舉クレハ左ノ如シ

米穀検査ノ設備

(明治四十年及四十一年度)

- 一米穀検査所 一ヶ所
- 縣廳内ニ置ク
- 二米穀検査出張所 七ヶ所
- 各郡役所内ニ置ク
- 三米穀輸出検査所 十八ヶ所
- 大川郡相生、引田、三本松、津田、志度、木田郡奥鹿、綾歌郡坂出、美合、仲多度郡多度津、三豊郡吉津、詫間、觀音寺、豊濱、和田、五郷、財田、高松市東濱、丸龜市西平山

四米穀生産検査地区

- 大川郡 九區 木田郡 七區 小豆郡 七區 香川郡 十區
- 綾歌郡 十四區 仲多度郡 十區 三豊郡 十三區
- 五米穀検査吏員 二百五十三人
- 所長一人、監督員九人、輸出検査員二十七人、生産検査員二百十四人、書記二人
- 六米穀検査所費

明治四十年度 歳出豫算高貳万貳千七拾八圓九錢貳厘
 明治四十一年度 歳出豫算高貳万七千九百參拾八圓九拾錢壹厘

米穀検査成績

生産検査成績

年次	總數	合格	不合格	合格歩合
四十年次	一、三八八、四四六	一、二四一、六〇九	一四六、八三七	八九四
四十一年次	一、七〇二、三三七	一、三六四、三三二	三三七、九一五	八〇二

輸出検査成績

四五六

年次	種目	總數	合 格			不 合 格	合 格 歩 合
			一 等	二 等	三 等		
四十一年度	精米	10,245	5,264	3,265	1,716	2,101	9,144
四十一年度	支米	10,245	4,877	3,247	2,141	4,418	9,429
四十年度	精米	10,245	1,264	9,035	7,996	8,731	1,254
四十年度	支米	10,245	1,997	8,248	6,251	8,248	1,997

仕向地別輸出検査數

地名	四十一年度		四十一年度	
	精米	支米	精米	支米
德島縣	32,189	11,495	42,065	16,152
高知縣	11,194	2,187	497	3,436
愛媛縣	6,134	423	8,272	90
廣島縣	4,244	1,961	2,895	4,490
岡山縣	2,424	5,096	7,053	11,931
兵庫縣	5,712	668	114,322	10,084
大阪府	9,221	49,637	114,474	19,909
和歌山縣	17,909	32,683	79,000	144,458

米穀検査ノ効果

一 俵装ノ改良

本縣米ハ往時藩政ノ時ヨリ一俵ノ容量區々ニシテ検査開始當時ノ如キハ實ニ九種ノ多キニ別レタリ殊ニ廢藩後ハ俵裝年ト共ニ粗雜ニ流レ隨テ米粒ノ脱漏多クシテ之ヲ遠隔ノ地ニ輸送セントスルニ當リ更ニ俵皮ヲ加ヘ括造ヲ要スルノ已ムナキニ至リ爲ニ無益ノ勞費ヲ要シ受渡ノ敏速ヲ缺キ取引上不便ヲ感スルコト尠カラサリキ然ルニ検査施行ト同時ニ俵装ノ方法ヲ改メ容量ヲ一定セシヲ以テ爾來大ニ其不便ヲ免ル、ニ至レリ今検査開始前後ニ於ケル一俵ノ容量ヲ擧クレハ左ノ如シ

地名	四十一年度		四十一年度	
	精米	支米	精米	支米
三 重 縣	173	84	17,941	2,086
東 京 府	1	395	3,759	5,981
北 海 道	5	349	157	77
其 他	85,386	105,225	390,435	408,694
合 計	85,386	105,225	390,435	408,694

四五七

郡名	検査開始前	検査開始後
大川郡	四斗二升、四斗三升、四斗四升五合	四斗
木田郡	四斗二升、四斗三升、四斗四升、四斗四升五合、四斗五升二合	同
小豆郡	四斗	同
香川郡	四斗二升、四斗四升、四斗五升	同
綾歌郡	四斗二升、四斗三升、四斗四升、四斗五升、四斗五升五合、四斗六升	同
仲多度郡	四斗二升、四斗三升	同
三豊郡	四斗二升、四斗四升	同
高松市	四斗二升	同
丸亀市	四斗二升	同
計	十種	一種

二 腐敗及虫害ノ減少

検査開始前ニ在リテハ産米ノ乾燥概シテ不良ナリシ爲メ夏季ニ至リテ變色腐敗ヲ來シ虫害ヲ蒙ルコト亦僅少ナラサリシ大阪市場ノ調査ニ依レハ本縣米ハ之ヲ防長米肥後米等ニ比シ腐敗虫害及前記俵裝ノ不完全ヨリ生スル脱漏米ヲ合シ其損失一石ニ付三升五合ナリト云フ而シテ本縣産米中翌年四月以後ニ於テ輸出又

三 搦耗ノ減少

ハ消費スルモノ仮ニ四十万石トシ之ニ前記ノ損失ヲ積算セハ其高一万四千石ノ巨額タリ然ルニ検査施行ノ結果乾燥俵裝共ニ防長米肥後米等ニ比シ毫モ遜色ナキニ至レルヲ以テ右ノ損失ハ全然之ヲ除却スルニ至レリ

検査開始前ニ於ケル産米ハ乾燥不良ナリシ爲メ精米トシテ搦耗多カリシカ検査施行ノ結果著シク其歩合ヲ減セリ之ニ關シ各地精米業者ノ説ヲ綜合セハ大約百分ノ五ヲ減少セシカ如シ尙其實ヲ確カメンカ爲メ明治四十一年四月農事試験場ニ於テ之カ試験ヲ行ヒシニ其結果ハ玄米百石ニ付改良米ノ方四石九斗五升ノ搦耗減少アルヲ示セリ

四 酒造肉垂ノ増加

本縣米ハ從來酒造用トシテ縣外ニ輸出セラル、モノ多カリシカ検査開始以來益其需用ヲ増加セリ依テ検査開始前後ニ於ケル産米カ酒造用トシテ果シテ幾何ノ差異アルカヲ知ランカ爲メ縣下各稅務署ニ依頼シテ之カ調査ヲ爲セシニ其成績左表ノ如クニシテ改良米ノ方精米百石ニ付肉垂一石四斗ノ増加アルヲ示セリ

年 度	米	水	糖	清酒	粕	白米一石ニ對スル歩合
三十九年	元、七、四〇	元、八、〇〇	四、五、〇〇	四、二、〇〇	三、六、〇〇	糖 一、〇七〇 水 一、〇〇〇 清酒 一、四三〇 肉 四、六〇〇 垂 八、三六〇 粕 七、八三〇
四十年	元、七、四〇	元、八、〇〇	四、五、〇〇	四、二、〇〇	三、六、〇〇	糖 一、〇七〇 水 一、〇〇〇 清酒 一、四三〇 肉 四、六〇〇 垂 八、三六〇 粕 七、八三〇

以上列記スルカ如クナルヲ以テ本縣米ノ販路ハ漸次擴張シ價格亦著シク昇騰スルニ至レリ即左表ノ如ク検査開始前ニ在リテハ之ヲ兵庫市場ニ於ケル防長米ニ比シ五ヶ年平均ニ於テ一石ニ付壹圓貳錢低廉ナリシカ検査開始後ハ反テ五拾錢ノ上位ヲ占メリ又備前米肥後米等ニ比スルモ其上位ヲ占ムルニ至レリ

検査開始前ニ於ケル米價ノ比較 (兵庫米穀肥料市場調査)

種 別	三十四年	三十五年	三十六年	三十七年	三十八年	平均	較 差
防 長 米	117.40	117.40	117.40	117.40	117.40	117.40	低
肥 後 米	117.40	117.40	117.40	117.40	117.40	117.40	高

検査開始後ニ於ケル米價ノ比較 (四十二年九月十九日 兵庫米穀肥料市場調査)

種 別	上	中	平	均	較 差
防 長 米	117.40	117.40	117.40	117.40	低
肥 後 米	117.40	117.40	117.40	117.40	高

氣象 附地震

總 說

九龍多度津兩藩ノ事蹟ハ今日ニ在テ調査シ難シト雖モ高松藩ニ在テハ船奉行ノ屬員ニ日和見ト稱スル職アリテ毎朝其日ノ陰晴風雨ノ兆候ヲ船奉行役所ニ報告スルヲ例トス當時固ヨリ學理ヲ應用シテ之ヲ測候スル等ノ事ハ之レナカル可クモ蓋從來ノ習慣ニ依テ風位雲色ヲ觀測スルニ過キサリキ今也事トシテ學アラサルナク物トシテ術アラサルナシ本縣ニ在テモ明治二十五年七月一日始テ一等測候所ヲ多度津町ニ創立ス即本藩ハ設岐氣象概要非常現象紀事本測候所ニ於ケル觀測概況四圍ニ於ケル大風ノ進路並縣下各地ノ風向及縣下ノ被害氣候經過ノ一斑等ヲ掲載シ附スルニ地震ノ狀況ヲ以テ是レ未タ其詳細ヲ盡ス能ハサルモ稍其大概ヲ窺フニ足ラン

讚岐氣象概要

四六二

讚岐ハ四國ノ東北部ニアリテ其最北部ニ位シ地勢東西ニ長クシテ行程二十五里餘ニ亘リ南北短クシテ廣キ所ト雖モ十里ニ滿タス面積總テ百十五方里餘ニシテ南ハ山岳ヲ以テ阿波及ヒ伊豫ノ一部ニ界シ西北東ノ三方ハ瀬戸内海ニ面シテ山陽道及ヒ淡路島ト相對ス海面ハ東西ノ兩端ニ廣クシテ中間ニ狹ク大小ノ島嶼其間ニ蕃布シ且備前兒島半島ト相接近シテ内海中ノ一海峽ヲ形成ス蓋シ本地ノ形狀タルヤ恰モ弓ヲ張ルカ如ク其弦ニ位スル地方ハ高陸ニシテ群山聯亘シ其弓ニ當ル地方ハ内海ニ瀕シテ概ネ平坦ナリ又中間ハ山岡原野相介在シテ土地ノ窪窪一ナラサルモ之ヲ概スルニ讚岐本土ノ地ハ南ニ高ク阿波ノ國界ニ至テ其極ニ達シ支山脈トナリテ兩國ノ境域ヲ分ツ夫斯ノ如キ地勢ナルヲ以テ讚岐ノ氣候ハ東西ヲ通シテ其北部ハ内海ヲ流ル、溫潮ノ爲ニ自ラ緩和ナルモ南スルニ從ヒ寒氣峻烈ニシテ氣温ノ較差次第ニ加ハリ霜雪ノ如キモ先ツ南方ヨリ始マルヲ通例トス又雨雪ノ量ハ北部沿海ノ地ニ最モ少クシテ南スルニ從ツテ増加シ南境山岳ノ部ニ至テ最モ多シ其南スルニ從ヒ斯ク降水ノ量ヲ増加スル所以ノモノハ畢竟前記ノ如キ地勢ナルト阿波ノ平原ヨリ吹送リ來ル南東洋風ノ影響ヲ受ルトニ依ル

抑モ讚岐ハ四國中ニ於ケル雨量ノ最モ寡少ナル土地ニシテ之カ爲ニ夏期盛暑ノ頃トナレハ往々旱魃ニ苦シムコトアリテ此時期ニ於ケル平均氣温ノ如キモ他ノ三縣地方ヨリ高度ニアルヲ通例トス又冬期寒風ノ季節トナレハ強烈ナル西風頻ニ吹キ荒ムヲ常トス而カモ吹續ケル時間ノ長クシテ風力ノ強キコトハ四國附近ニ於テ他ニ多ク其比ヲ見サル處ナリ今是等ノ原因ヲ釋スルニ讚岐ハ前記ノ如キ地形ナル上更ニ南方ニハ四國主山脈ノ峻聳連亘スルアリ北方ニハ内海ヲ隔テ、中國山脈ノ蜿蜒起伏スルアリ其他東ニ淡路島西ニ藝豫ノ諸山アリテ何レノ方位ヨリスルモ饒濕ナル大洋風若シクハ外海風ニ直接スルコト能ハス是レ降水量ノ寡少ナル原因ナリ冬期西風ノ特ニ旺盛ナルハ亞細亞大陸上ニ滿積セル高氣壓部位ヨリ流出スル所謂流行風ノ四國北面ノ山側ニ沿フテ内海ノ水道ヲ東流スルト一ハ四國ノ高嶺ニ衝突シ其凹處ニ墜落奔流スルカ爲ナリ殊ニ天氣ノ恢復期ニ於テ高低氣壓ノ較差著大ナル時ハ其猛烈ヲ極ムルモ亦此原因ニ外ナラス

之ヲ要スルニ南海道ニ於ケル讚岐ノ氣候ノ斯ク特徴ヲ有スル所以ノモノハ全ク其位置ト地勢トニ關係スルモノニシテ就中四國山脈ノ爲ニ支配サル、コト最モ多キニ居ルモノナリ而シテ氣壓ノ全年平均示度ハ七百六十一耗九ニシテ各月平均示度

四六三

ノ最モ高キハ一月ノ七百六十五耗八トス其最モ低キハ七月ノ七百五十六耗三ナリ
 而シテ既往十六年間ニ於ケル最高度ハ明治三十一年十一月二十九日ノ七百七十九
 耗ニシテ最低度ハ明治三十二年八月二十八日ノ七百二十四耗六ナリトス●氣温ノ
 全年平均示度ハ攝氏十五度ニシテ各月平均示度ノ最モ高キハ八月ノ同二十七度
 一其最モ低キハ二月ノ同四度八ニシテ而シテ既往十六年間ニ於ケル最高度ハ明治
 三十二年八月十一日ノ攝氏三十五度八ニシテ最低度ハ明治三十七年一月二十七日
 ノ攝氏氷点下六度一ナリ又最高氣温ノ全年平均示度ハ攝氏十九度同各月平均示度
 ノ最モ高キハ八月ノ同三十一度ニシテ最低氣温ノ全年平均示度ハ攝氏十一度三
 同各月平均示度ノ最モ低キハ二月ノ攝氏〇度九ナリトス●氣温ノ最高低兩極較差
 ノ全年平均ハ攝氏七度七ニシテ各月平均ノ最大ナルハ十月ノ八度九最小ナルハ七
 月ノ六度四ナリ又既往十六年間ニ於ケル最大較差ハ明治三十二年十二月二十三日
 ノ十八度二ナリトス●水蒸氣張力ノ全年平均示度ハ十一耗ニシテ各月平均示度ノ
 最モ高キハ八月ノ二十耗六最モ低キハ二月ノ四耗五ナリ而シテ既往十六年間ニ於
 ケル最高度ハ三十一年八月二日ノ二十八耗二ニシテ最低度ハ三十七年一月二十六
 日ノ一耗九ナリトス●濕度ノ全年平均示度ハ七十五%七ニシテ各月平均度ノ最少

ハ二月ノ六十九%八ナリ而シテ既往十六年間ニ於ケル最少度ハ二十六年四月二十
 七日ノ二十四%ナリトス●降水量ノ全年量ハ千三百三十七耗八ナリ而シテ各月量ノ
 最多ハ九月ノ百七十三耗八ニシテ七月ノ百四十九耗六之ニ次キ最少ハ二月ノ三十
 六耗四ニシテ一月ノ四十二耗一之ニ次ク又既往十六年中ニ於ケル一日間ノ最多降
 水量ハ明治三十年九月二十九日ノ百八十四耗ニシテ一時間ノ最多降水量ハ同日ニ
 於ケル三十九耗六ナリトス●蒸發量ノ全年間一日平均量ハ二耗九ナリ而シテ其最
 モ多キ月ハ八月ニシテ一日平均五耗四ヲ示シ最モ少キ月ハ一月ニシテ同一耗四ヲ
 示ス又既往十六年間ニ於ケル最多量ハ明治二十六年八月十三日及二十七年八月二
 十日ノ九耗五ナリトス●雲量(十分率)ノ全年平均量ハ六〇%ニシテ各月平均量ノ最モ
 多キハ六月ノ七三最モ少キハ十一月ノ五一ナリ●日照時數ノ全年現照時數ハ二千
 二百十三時三ニシテ各月現照時數ノ最モ多キハ八月ノ二百五十五時六最モ少キハ
 一月ノ百三十九時九ナリ又可照時數ニ對スル現照時數ノ全年百分率ハ五十%ニシ
 テ各月百分率ノ最モ多キハ八月ノ六十二%最モ少キハ一月ノ四十四%ナリトス●
 風速度ノ全年平均示度ハ四米七ナリ而シテ各月平均示度ノ最モ大ナルハ十二月ノ
 七米四ニシテ一月ノ六米八二月ノ六米五各之ニ次キ最モ小ナルハ六七八月ノ三米

四ナリ又既往十六ヶ年間ニ於ケル最大風速度ハ三十二年八月二十八日ノ三十七米五ニシテ其方位西ナリキ●風位ノ最モ多キハ西ニシテ尙各月ニ於ケル最多方位モ九、十、十一月ノ南々東ヲ除クノ外ハ概ネ西風ノ占ムル處多シ最強風力ニ對スル方位モ亦西ナリ●雨雪霰霰ヲ總稱シテ降水トシ此降水量ノ一耗ノ十分一以上ニ及ヒタル日ヲ算ヘテ降水日數トスレハ平年百四十日トナル而シテ降水日數ノ最モ多キハ三月ニシテ十四日最モ少キハ八月ニシテ九日ナリ●雪ハ平年一月一日ヲ以テ始マリ三月五日ヲ以テ終ル然レモ早キ年ニハ十二月八日ニ初雪ヲ見又終雪ノ最モ遅キ年ニハ三月十八日ニ晩雪ヲ見シコトアリ而シテ此間ニ於ケル降雪日數ハ總テ十三日ニ及フヲ通例トス●霰ハ平年十二月五日ヲ以テ始マリ翌年三月十三日ヲ以テ終ル然レモ最モ早キ年ニハ十一月六日ニ初霰ヲ見又終霰ノ最モ遅キ年ニハ四月十二日ニ晩霰ヲ見シコトアリ而シテ此間ニ於ケル降雪日數ハ總テ十六日ニ及フヲ通例トス●雹ハ十月ヨリ翌年五月ニ至ルノ間ニ現ハルハモ年ニ依テハ全ク降雪ヲ見サルコトアリ又降雪ノ多キ年ト雖モ一年二回ヲ超ユルコト甚ク稀ナリ●雷電ノ日數ハ平年十四日ニシテ八月ニ最モ多ク一月及二月ニ最モ少シ●霧ハ平年五日ニシテ六月ニ最モ多ク而シテ八、九、十ノ三ヶ月ニハ全ク之ヲ見ス●快晴日數ハ平年三

十八日ニシテ十一月ニ最モ多ク六月ニ最モ少シ●曇天(雨天含有)ハ平年百十九日ニシテ六月ニ最モ多ク二月及十二月ニ最モ少シ●暴風(強烈)颶風ノ總稱日數ハ平年百二十一日ニシテ十二月ニ最モ多ク一月二月各之ニ次キ六月ニ最モ少シ●霜ハ平年十二月二日ニ始マリ三月二十五日ニ終ル然レモ最モ早キ年ニハ十一月十六日ニ初霜ヲ見又終霜ノ最モ遅キ年ニハ四月十九日ニ晩霜ヲ見シコトアリ
右ハ明治二十六年ヨリ同四十一年ニ至ル滿十六ヶ年間多度津ニ於ケル觀測成績ノ内ヨリ摘録シタルモノニシテ尙各月狀況ノ一斑ヲ左ニ表示ス

自明治廿六年至全四十二年十六ヶ年間觀測 多度津氣象一覽表

事項	平均		最高		最低	
	日年	日年	日年	日年	日年	日年
一月	七五、八	七五、四	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
二月	七五、五	七五、五	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
三月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
四月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
五月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
六月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
七月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
八月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
九月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
十月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
十一月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
十二月	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六
全年	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六	七五、六

年	月	風		平均		最大		種類	日	數
		向	強	速	方	回	方			
三十二年	一月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	二月二日	一
	二月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	二月五日	一
	三月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	三月二日	一
	四月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	三月十三日	一
	五月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	三月二十五日	一
	六月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月十一日	一
	七月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月十六日	一
	八月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月十九日	一
	九月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月二十二日	一
	十月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月二十五日	一
	十一月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月二十八日	一
	十二月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月三十日	一
全年										

年	月	風		平均		最大		種類	日	數
		向	強	速	方	回	方			
三十二年	一月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	二月二日	一
	二月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	二月五日	一
	三月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	三月二日	一
	四月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	三月十三日	一
	五月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	三月二十五日	一
	六月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月十一日	一
	七月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月十六日	一
	八月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月十九日	一
	九月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月二十二日	一
	十月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月二十五日	一
	十一月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月二十八日	一
	十二月	北四度	四	北四度	四	北四度	四	雪	四月三十日	一
全年										

非常現象紀事

明治二十五年ヨリ同四十一年ニ至ル十七年間ニ於ケル最モ顯著ナル非常現象
ニ關スル紀事大略左ノ如シ

(旱魃) 讃岐ハ元來降水ノ量尠ク就中盛暑期ニ當テ降雨稀少ニシテ氣温高ク從テ蒸
發量モ亦多キカ故ニ此際少シク旱天打續ケハ忽チ灌水ノ缺乏スルヲ常トス既往十
六年間ノ盛暑期ニ日數二十日以上降雨ノナカリシハ明治二十六年及二十七年ニシ
テ則チ此兩年ノ暑候ニ於テ當地ノ降水量合計十耗(一坪面ニ付一斗八升三合二勺)以
上ニ達セサルヨト二十六年ニアリテハ三十八日間二十七年ニアリテハ四十日間ニ
及ヒタルカ殊ニ二十七年八月中ノ如キハ高松ニ四十耗(一坪面ニ付七斗三升二合八

勺七箇ニ四十六耗(一坪面ニ付八斗四升二合七勺)及ヒ財田上ニ二十八耗(五斗一升三合)ノ水量ヲ降セシ驟雨アリタルノミニシテ他ハ皆十耗(一坪面ニ付一斗八升三合二勺)内外ノ降水ニ止マリ其中ニモ長尾西土庄坂出宇多津丸龜多度津附近ノ如キハ一ヶ月間ノ合計僅ニ三耗(一坪面ニ付五升五合)ニ滿タヌ而シテ溫度ハ此久旱ノ爲メニ非常ニ高ク七八兩月ノ如キハ平年ヨリ平均二度以上ノ過高ヲ示シ從テ蒸發量モ亦驚クヘキ程多クシテ平均一日七耗(一坪面ニ付一斗二升八合)以上ノ水ヲ蒸散セシメ加フルニ春來降水量寡少ニシテ貯水及池水ノ減耗セシコト著シク彼是相俟テ爰ニ非常ナル大旱魃ヲ現出シ用水ノ缺乏スル耳ナラス池底乾キテ龜裂ヲ生シ井水涸渴シテ汲ムニ水ナキ等ノ慘狀ヲ呈シ稻禾枯死シテ收穫皆無ノ悲況ヲ現セシコト枚舉ニ遑アラス常ニ旱害アル讃岐地方ニ於テモ如此キ大旱害ハ眞ニ稀ナリトス明治二十七年ノ大旱魃トシテ今尙人ノ記憶ニ存スルモノ誠ニ故ナキニアラサルナリ

(洪水) 明治二十九年八月三十日午前六時晴雨計ハ九州地方ニ微降ヲ現シ鹿兒島附近ニ一低氣壓ノ接近シ居レルモノ、如クアリキ而シテ該低壓部ハ南海全岸ニ擴布シ其中心ハ午後二時頃土佐洋ニ現出シ同七時頃紀伊水道附近ニ達シ同九時頃和歌山附近ヲ過キ同十時半頃大阪京都間ヲ橫斷シテ日本海ニ出テタリ之カ爲メ本縣地

方モ暴風雨トナリ同日午後四時ヨリ同十時ニ至ル間ニ於テ非常ニ烈シク豪雨ヲ降シタル次第ナルカ其水量ハ南境山岳部ニ頗ル多大ニシテ北部海岸地ニ比スレハ二倍乃至三倍以上ノ多キヲ示シ殊ニ中央南部ノ山間ニ最モ烈シク暴注シタルモノニシテ香川郡安原下ノ如キハ多度津ノ降水量九十五耗三ニ對シ實ニ二百七十耗九ニ及ヒタル次第ナリ此二百七十耗九ヲ一坪面ノ水量ニ換算スレハ四石九斗六升二合九勺トナル此驚クヘキ大水量ハ實ニ一日間ニ降リタルモノニシテ常ニ雨量ノ寡少ナル本縣地方ニ於テハ稀有ノ一大非常現象ト云フベキナリ左レハ如何ニ水害ノ稀ナル本縣ノ地ト雖モ斯ル大量ノ降雨ノ而モ川源ノ地ニ發リタルコトナレバ忽チ縣下東西洪水氾濫シテ近來未曾有ノ水害ヲ被リタル次第ナルガ既往十六年間顯著ナル洪水ト云ヘハ之ヲ措テ他ニ索ムベカラス尙ホ當時縣下各所ニ於ケル降水量ヲ列記セハ左ノ如シ

香川郡安原下

二七〇九^耗

那珂郡七箇

二〇六九

全 琴平

一八七〇

阿野郡新名

一五九五

鶴足郡岡田下	一五八七
三野郡財田上	一五八五
豊田郡大野原	一三三三
大内郡松原	一二八〇
豊田郡觀音寺	一二〇四
小豆郡土庄	一一五一
寒川郡長尾西	一一一八
高松市内町	九八八
鶴足郡宇多津	九五五
多度郡多度津	九五三
阿野郡坂出	九三五
三野郡大湫浦	八八四

(多度津ニ於ケル最大降水量) 多度津測候所ニ於テ實測セル同地ノ一日間最大降水量ハ今日迄ノ處ニテハ明治三十年九月二十九日ノ大雨ヨリ以上ノモノナシ抑モ該暴風雨ノ進路タルヤ一般ニ豪雨ヲ降シタルモ風力ハ割合ニ強烈ナラサリシヲ以テ

風災ヨリハ水害ノ方蓋シ多キニ居ルナラン而シテ同月二十六日其中心ノ呂宋島附近ニ現ハレテ以來二十九日ニ本邦ヲ東方ニ通過シ了リタル迄ノ間ニ測リタル當地ノ降水量ハ合計二百四十六耗三(一坪面ノ水量四石五斗一升二合二勺)ニ達シ就中心接近ノ當日即チ二十九日ノ如キハ一日間ニ百八十四耗一坪面ニ三石三斗七升九勺ノ大量ヲ降セリ然レモ斯大雨ハ縣下ニ於テハ幸ニシテ多ク沿海地ニ暴瀉シ川源地タル南境山岳部ニ至テハ却テ減量ニ傾キシ爲メ昨秋ノ如ク洪潦氾濫ノ慘狀ヲ呈スル迄ニハ至ラサリキ

(大風) 明治三十二年八月二十八日ニ襲來セル大風ハ實ニ當地方ニ於ケル稀有ノ現象ニシテ此十六年間に於ケル風災中ノ最大ナルモノトス依テ今之カ狀況ヲ左ニ項ヲ分チテ記録スヘシ

多度津測候所ニ於ケル觀測概況

風心ノ當地附近ニ達シタルトキヨリ四十七時間前即チ八月二十六日午後十時ヨリ氣壓ハ徐降スルノミニシテ回復セス二十八日午前十時ヨリハ更ニ急降ヲ呈シテ次第ニ險惡トナリ午後八時ヨリ一層激降ヲ來シテ十分時間ニ平均二耗六ノ割合ヲ以テ沈降シ東方ノ烈風ニ雨ヲ交ヘテ天候益不穩トナレリ斯クテ午後九時遂ニ最低度

ニ達シテ晴雨計七百二十四耗四ヲ示シ午後八時ヨリ九時ニ至ル一時間ニ十五耗六降レリ愛ニ中心ハ當地附近ニ達シタルモノ、如ク電光閃々濕氣飽充シテ風力頓ニ減衰シ其間凡十五分時ニシテ晴雨計ハ俄然非常ナル急昇ヲ來シ十分時間ニ約四耗ノ割合ヲ以テ暴昇スルト同時ニ風向ハ西ニ轉シテ極メテ猛烈ナル颶風トナリ同九時三十五分ニ於テ一秒時間五十二米五(一)間平方ニ對スル風壓力二百九十二貫目ニ當ルノ稀有ノ最大風速度ヲ測ルニ及ヘリ樹ヲ折リ家ヲ倒シ無數ノ死傷ヲ出シタル一大慘事ハ實ニ此間ノ出來事ニシテ同九時五十分ニ至リ稍柔ラキシモ尙颶風ヲ降ラス(氣壓ハ午後九時ヨリ十時ニ至ル一時間ニ十九耗一昇レリ)然レモ颶心ノ通過頗ル迅速ナリレヲ以テ午後十時ヨリ已ニ漸衰シテ烈風トナリ又強風トナリテ夜半氣壓七百五十一耗五ニ回復シ風速度モ亦九米一ニ迄減退シ以後風力ニ多少ノ増減アリタレトモ漸次復常シテ翌朝ハ晴天ヲ見ルニ至レリ愛ニ不幸中ノ幸トモ謂ヘキハ降雨ノ比較的少量ナリシコトナリトス則チ同日午前十時四十五分ヨリ翌二十九日午前二時五十二分ニ至ル十六時七分間ニ測リタル合計三十二耗九(一)歩面ニ對スル水量六斗二合七勺ニ當ル)ニシテ折季節ニ於ケル通常ノ量ニ過サリシト一ハ時恰モ干潮ニ際シ居リシヲ以テ災害ノ尙彼カ如クニシテ止タルモノナリ

四國ニ於ケル大風ノ進路ト縣下各地ノ風向

颶心ノ四國ヲ縦貫シタルトキハ察スルニ一時間約五十哩ノ速力ヲ以テ高知附近(高知ハ午後八時晴雨計最低ニ達シテ七百二十二耗二ヲ示セリ)ヨリ北上シテ伊豫讚岐ノ國境近傍ニ出テタルナラン夫ヨリ讚岐三豊郡ヲ北微北東ニ進行シテ多度津ノ南西方ニ現ハレタルハ午後九時頃ナリトス時ニ多度津ニ於ケル風向暫時一定セザリシカ同九時十六分ニ至リ東ヨリ急ニ南轉シテ西ニ變セリ而シテ中心ノ更ニ北進シテ對岸備中ニ入タルハ午後九時三十分乃至四十分頃ト推知セラル、ナリ尙又縣下各所ニ於ケル當時主ナル風位ヲ樹木家屋ノ倒壞セル方向等ニ據リ推測ヲ下セハ則チ多度津及其以西ニアリテハ西ナレモ多度津ヨリ東方凡七哩ノ所ハ南西同七哩以上十七哩迄ノ所ハ南西又ハ南同十七哩以上二十五哩迄ノ所ハ南又ハ南東ニシテ小豆島ハ東又ハ南東ナリ

縣下ノ被害

被害ノ多クハ陸上ニ於ケル風災ニシテ沿海ヨリモ山野ニ甚シキカ如ク殊ニ颶心ヲ去ルコト凡十五哩乃至二十哩ナル讚岐中央部ニ於テ最も多ク慘害ヲ被リタルモノトス蓋シ此大風ハ當地方ニ於ケル非常現象中ノ最大非常現象トモ稱スヘキモノニ

シテ其災害ノ多大ナリシコト未タ嘗テ見サル所ナリ

(大雪) 讚岐ハ原來暖地ナルカ故ニ見渡ス限リ一面ノ銀世界ト化スルカ如キ平地ノ積雪ハ南境山岳部ノ外ニハ至テ尠ク珍ラシキ雪ト稱スル程ノモノニテモ深サ一寸以上ニ達スルコトハ多ク見サル所ナルカ測ラスモ明治四十年二月ニ至テ當地方ニ於ケル古稀ノ老人モ未タ嘗テ見サル處ナリトマデ驚歎セシ非常ナル大雪ニ遭遇セシゾ意外ナル扱モ同年ハ兎角氣候ニ激變多キ年柄ナリシカ二月十日午前十一時二分ヨリ降り出シタル雪ハ翌十一日午後六時二十六分ニ至テ止ミ此間三十一時二十四分ニ亘リ殊ニ十日午後十時ヨリ十一日午前十時ニ至ル間甚ク降り頻リシ爲メ非常ノ大雪トナリテ積雪ノ深サ八寸三分八厘ニ達シ其後ハ漸次積深ヲ減シタレモ地上ニハ尙十三日正午迄殘雪ヲ留メタリ又縣下ニテモ内部ノ平野ニ至レハ深サ一尺五寸ニ及ヒ更ニ山間ノ地ニ至レハ一尺八寸乃至二尺以上ニモ達シタル所アルカ如シ本縣ニ於ケル如斯ノ大雪ハ實ニ稀有ニシテ蓋シ數十年來多ク見サル所ノモノナリ

氣候ノ經過一斑(但シ多度津ニ於ケル状態ヲ叙述ス)

(二月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏五度四ヲ示シ其最高ハ通常攝氏十三度六ニシテ

絕對極度ハ同十七度一ニ迄昇リ又最低ハ通常攝氏氷點下二度七ニシテ極度ハ同氷點下六度一迄ニ降ルコトアリ而シテ平均氣温ノ經過ハ月初ヨリ漸次低下ニ傾クノ

ミナリ●濕度ハ全月平均七十二%ニシテ極メテ乾燥スルトキハ三十四%迄減濕スルコトアリ●風速度ハ全月平均一秒間六米八(疾風)ニシテ極メテ強烈ナル時ハ三十米

(颶風)ニ達スルコトアリテ現ニ今日迄ノ最大風速度ハ西ニテ三十六米一ヲ測リシコトアリ而シテ暴風(強烈颶風)ノ總稱ノ日數ハ全月ヲ通シテ十七日ニ及フヲ通例トス

●降水量ハ全月合計四十二耗(一坪面ニ付七斗七升二合)ニシテ其日數ハ十日ナリ但シ時々少量ノ雪霰ヲ降スコトアレモ降水量ノ多クハ雨水ニ屬ス●之ヲ要スルニ

斯月ハ中冬ノ候ニシテ西北風多クシテ寒威日ニ増進スルト共ニ氣中ノ水氣次第ニ減少シ尙特徴トシテハ天氣一變スル毎ニ西風猛烈ニ吹荒キ且長時間吹續クコトナリトス

(三月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏四度八ヲ示シ月中ノ最高ハ通常攝氏十三度七ニシテ其極度ハ去三十六年ニ攝氏十八度三ニ達セシコトアレモ斯ノ如キハ極メテ稀ナリ又最低ハ通常攝氏氷點下三度二ニシテ其絕對極度ハ攝氏氷點下五度ニ迄降ルコトアリ●濕度ハ全月平均七十%ヲ示シ一年中ニ於ケル平均濕度ノ最モ寡少ナル

時期ニシテ極メテ乾燥スルトキハ少時間三十六%迄減濕スルコトアリ●風速度ハ全月平均一秒間六米五疾風ヲ示シテ前月ヨリ稍減退セリト雖モ極メテ強烈ナルトキニハ三十米颶風ニ達スルコトアリテ現ニ今日迄ノ最強速度ハ三十一米九(西南西ノ方向)ナレトモ如斯ハ稀ニシテ通常ハ強キモ二十九米ニ止マルモノトス●降水量ハ全月合計三十六耗四(一坪面ニ付六斗六升七合ノ水量ニ當ル)ニシテ一年中ニ於ケル最モ稀少ナル月ナレトモ時トシテハ三十九年ノ如ク九十耗ヲ超ヘシコトアリ又最モ寡雨ナル年ニハ四十一年ノ如ク全月ノ總量僅々七耗五ニ過キサコトアリ而シテ降水日數ハ平年九日ナリ但シ斯月ハ一年中ニ於ケル積雪ノ最モ頻繁ナル時期ナレトモ尙降水量ノ多クハ雨水ニ屬ス●之ヲ要スルニ斯月ニ於ケル氣象ノ特徴ハ寒風強烈ノ時ナルモ其勢力ハ前月ヨリ稍減退シ尙一年中ニ於ケル氣温ノ最モ低ク且大氣中ノ水分最モ稀少ナル時期ナリ又寒氣ハ月ノ十二三日頃迄増進シ爰ニ一年中ノ極度ニ達シテ爾後漸次緩和ニ趣クモノトス

(三月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏七度七ヲ示シ月中ノ最高ハ通常攝氏十七度五ニシテ其極度ハ攝氏二十度六迄ニ昇リ又最低ハ通常攝氏ノ氷點下一度七ニシテ其極度ハ攝氏氷點下三度六迄ニ降ルコトアリ而シテ平均氣温ノ經過ハ中旬ノ前期マテ

攝氏五度乃至七度ノ間ヲ昇降シ夫レヨリ同七度以上ニ昇リ下旬ノ央ヨリ同十度以上ニ達スルヲ通例トス●濕度ハ全月平均七十四%ヲ示シ前月ヨリ増加セリト雖モ極メテ乾燥スルトキニハ却テ前月ノ最小度ヨリモ減少シテ少時間二十九%迄ニ減濕スルコトアリ●風速度ハ全月平均一秒間四米八ヲ示シテ前月ヨリ大ニ減衰セリト雖モ最モ強烈ナルトキニハ去三十三年ニ三十一米颶風ニ達セシコトアリシカスノ如キ稀有ノ場合ハ格別トシテ通常ハ尙二十米内外ニ及フモノトス●降水量ハ前月ヨリ大ニ増加シテ全月合計八十一耗八(一坪面ノ水量一石四斗九升九合ニ當ル)ニ及ヒ非常ニ多雨ナル年ニハ百四十耗以上ニ達スルコトアルモ最モ寡雨ナル年ニハ三十二耗ニ止マリタルコトアリ而シテ降水日數ハ平年十四日ニ及ヒテ比較的繁雨ノ時期ナリトス●之ヲ要スルニ斯月ノ氣候ハ冬季ヨリ春季ニ遷ル變化期ニシテ寒風大ニ衰退シ暖氣日ニ加ハリテ下旬ニ至レハ既ニ桃花綻ヒ初ムルコトアリ

(四月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏十二度九ヲ示シ月中ノ最高ハ通常攝氏二十二度七ニシテ其極度ハ攝氏二十四度ニ達シ又最低ハ通常攝氏二度ニシテ其極度ハ攝氏零度ニ迄降ルコトアリ而シテ平均氣温ノ經過ハ月初ニ於ケル攝氏十度ヨリ漸次上昇シテ月末ニ至リ同十五度ニ達スルヲ通例トス●濕度ハ全月平均七十六%ヲ示

シ前月ヨリ二%ノ増加ヲ來スト雖モ極メテ乾燥スルトキニハ却テ前月ヨリモ減少
 シテ少時間二十四%迄減濕シ全年間ノ最少度ニ達スルコトアリ●風速度ハ全月平
 均一秒間四米一ニシテ最速速度ハ去二十六年ニ西ノ方向ニテ三十一米四(颶風)ニ達
 セシコトアレモ如斯ハ極メテ稀ニシテ多クハ二十米以下ニ止マルモノトス●降水
 量ハ次第ニ増加シテ全月合計九十六耗(一坪面ノ水量一石七斗六升四合ニ當ル)ナ
 レモ非常ニ多雨ナル年ニハ一日ノ量四十五耗ニ及ヒ全月ノ總量百五十耗以上ニ達
 スルコトアレモ之ニ反シテ最モ寡雨ナル年ニハ全月ノ總量四十耗ニ及ハサルコト
 アリ而シテ降水日數ハ平年十三日ニ及フ●之ヲ要スルニ斯月ノ氣候ハ北西ノ寒風
 全ク終息シテ著シク溫暖トナリ所謂彌生ノ春ノ央ニ屬シ百花爛熳タリ又中旬ノ終
 頃ヨリハ蠶卵孵化シ始メ下旬トナレハ既ニ麥ノ秀穂ヲ見ルニ至ルヲ通例トス
 (五月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏十七度一ヲ示シ月中ノ最高ハ通常攝氏二十五度
 八ニシテ其極度ハ攝氏二十七度ニ迄達シ又最低ハ通常攝氏六度七ニシテ其極度ハ
 攝氏三度八ニ迄降ルコトアリ而シテ平均氣温ノ經過ハ月初ニ於ケル攝氏十五度ヨ
 リ次第ニ上昇シテ月末ニ至リ同十九度ニ達スルヲ通例トス●濕度ハ前月ト殆ント
 同様ニシテ全月平均七十六%ヲ示シ極メテ乾燥スルトキハ少時間二十九%迄減濕

スルコトアリ●風速度ハ前月ヨリモ減衰シテ全月平均一秒間三米九ヲ示シ最速速
 度ハ去三十三年ニ西ノ方向ニテ二十三米九(烈風ノ中程)ニ達セシコトアレモ如斯ハ
 甚タ稀ニシテ暴風ノ際ト雖モ多クハ二十米以上ニ達スルコト尠シ●降水量ハ全月
 合計百三耗(一坪面ニ付一石八斗八升七合ノ水量ニ當ル)ナレモ年ニ依リテ甚タシキ
 差違ヲ生シ非常ニ多雨ナル年ニハ去二十六年ノ如ク二百耗ヲ超ヘ又一日間ニ殆ン
 ト六十耗ノ大量ヲ降セシコトアレモ之ニ反シテ最モ寡雨ナル年ニハ去二十七年ノ
 如ク全月ノ總量僅ニ二十三耗ニ過キササルコトアリ而シテ降水日數ハ平年十三日ニ
 及フヲ常トス●之ヲ要スルニ斯月ハ氣温著シク上昇シ氣流緩慢トナリテ降水量モ
 亦増加ス但シ前半月間ニアリテハ動モスレハ不順ナル氣候ニ遭遇シテ著シク冷氣
 ヲ感スルコトアレモ下旬ニ至レハ既ニ初夏ノ状態ヲ呈スルヲ通例トス
 (六月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏二十一度四ヲ示シ月中ノ最高ハ通常攝氏二十九
 度三ニシテ其極度ハ攝氏三十四度ニ迄外リシコトアリ又最低ハ通常攝氏十二度三
 ニシテ其極度ハ攝氏八度ニ迄降リシコトアレモ斯ノ如キハ極メテ稀ニシテ多クハ
 同十一度ヨリ以下ニ降ラサルヲ常トス而シテ平均氣温ノ經過ハ月初ニ於ケル攝氏
 十九度ヨリ次第ニ上昇シ、下旬ノ初ニ至リ同二十三度ニ達スルヲ通例トス●濕

度ハ全月平均八十一%ニ及ヒ一年中大氣ノ最モ濕潤ナル時期ニシテ所謂入梅ノ季節ニ屬シ間々水氣ニ飽和スル迄増濕スルコトアルヲ常トスレモ亦極メテ乾燥スルトキニハ少時間三十六%迄減濕スルコトアリ●風速度ハ一年中ノ最モ弱小ナル時期ニシテ全月平均一秒間三米四ニ過キス偶々暴風アルモ二十米(烈風ノ中程)ニ達スルコトハ極メテ稀ナリ●降水量ハ次第ニ増加シテ平年全月ノ合計百三十二耗(一坪面ニ付二石四斗二升四合ノ水量ニ當ル)ニ及ヒ非常ニ多雨ナル年ニハ二百七十耗ニモ達シ又一日間ニ六十耗ノ大量ヲ降セシコトアレモ之ニ反シテ最モ寡雨ナル年ニハ全月ノ總量四十二耗ニ過キザルコトアリ而シテ降水日數ハ平年十四日ナレモ年ニ依テハ二十日ノ多キニ及ヒ又少ナキ年ニハ八日ニ止マルコトアリ然レモ斯月ハ概ネ雨量ノ多キヲ以テ通例トス●之ヲ要スルニ斯月ハ初夏ノ雨期ニ屬シ所謂梅雨ト稱スル霖雨ノ現ハル、季節ニシテ氣流緩慢濕氣飽充一年中ニ於ケル天氣ノ最モ陰鬱ニシテ濕潤ナルノ時期ナリトス

(七月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏二十五度四ヲ示シ月中ノ最高ハ通常攝氏三十三度ナレモ暑キ年ニハ攝氏三十五度三ニ迄昇ルコトアリ又最低ハ通常攝氏十八度九ナレモ不順ナル年ニハ攝氏十六度二ニ迄降ルコトアリ而シテ平均氣温ノ經過ハ月

初ニ於ケル攝氏二十四度ヨリ次第ニ上昇シツ、中旬ノ初ニ至リ同二十五度以上ニ昇リ下旬ノ終期ニ於テ同二十七度以上ニ達スルヲ通例トス●濕度ハ全月平均八十一%ヲ示シ前月同様一年中大氣ノ最モ濕潤ナル時期ニ屬スレモ亦極メテ乾燥スルトキニハ少時間三十九%迄減濕スルコトアリ●風速度ハ全月平均一秒間三米四ヲ示シ前月同様一年中ニ於ケル弱小ナル時期ニシテ暴風ノ際ニテモ二十米烈風ノ中程以上ニ達スルコト甚ダ多カラス●降水量ハ前月ヨリモ増加シテ全月合計百四十九耗(一坪面ニ付二石七斗四升一合ノ水量ニ當ル)ニ及ヒ一年中第二ノ最多月トス非常ニ多雨ナル年ニハ殆ソト三百耗ニモ達シ又一日中百耗以上ノ大雨ヲ降スコトアレモ之ニ反シテ非常ニ寡雨ナル年ニハ全月總量三十耗ニモ達セザルコトアリ而シテ降水日數ハ平年十三日ナレモ甚タ不定ニシテ年ニ依テハ二十一日ノ多キニ達スルコトモアレハ亦極メテ稀雨ノ年ニハ僅々二日ナルコトアリ●之ヲ要スルニ斯月ノ氣候ハ梅雨ノ後ヲ享ケテ尙多濕ノ時期ニ屬シ氣流モ亦緩慢ナレモ氣温ハ次第ニ上昇シテ中旬ノ初メヨリ著シク暑熱ノ増進スルヲ通例トス

(八月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏二十七度一ヲ示シ其最高ハ通常攝氏三十四度極度攝氏三十五度八ニ達スルコトアリ又最低ハ通常攝氏二十度四ニシテ其極度ト雖

モ攝氏十八度以下ニ降ルコト甚タ稀ナリ而シテ八月ハ一年中ノ最モ暑キ時期ニシテ暑氣ハ十二三日頃迄増進シ夫レヨリ少シツ、減退スルヲ通例トス●濕度ハ全年平均七十八%ヲ示シ前月ヨリハ著シク乾燥シテ減濕ノ極度ハ少時間ノコトナレモ三十七%迄減少スルコトアリ●風速度ハ其平均ノ状態ニ於テハ前月同様甚ク微弱ナル時期ニシテ平均三米四ニ過キサレモ偶颯風ノ襲來ニ遇フキハ猛烈ニ吹荒ミテ全年中ノ最強速度ニ達スルコトアリ●降水量ハ全年合計百五耗(一坪面ニ付一石九斗二升四合ノ水量ニ當ル)ナレモ年ニ依リ甚シキ懸隔アリテ非常ニ多雨ナル年ニハ殆ント三百耗ニモ達シ又一日ノ降水量百耗ノ大雨ヲ見ルコトアレモ非常ニ稀雨ナル年ニハ全年ノ總量僅々三耗ニ達セザルコトアリ而シテ降水日數ハ平年九日ナレモ是又甚タ不定ニシテ年ニ依テハ十九日ニ達スルコトアレモ稀雨ノ年ニハ僅々三日ナルコトアリ●之ヲ要スルニ斯月ノ氣候ハ高温稀雨ニシテ旱魃ニ苦シムヲ通常トスレモ原來下旬ハ所謂暴風雨ノ季節ナルヲ以テ若シモ颯風ノ襲來頻繁ナル時ハ大雨猛風屢起リテ風水ノ害積出スルコトアリ故ニ斯月ノ氣候及天候ハ颯風襲來ノ有無ニ依テ非常ノ大差違ヲ生スルモノトス

(九月ノ氣候) 氣温ハ全年平均攝氏二十三度ニ示シ其最高ハ通常攝氏三十二度ナ

レモ極度ハ攝氏三十四度四ニ達スルコトアリ又最低ハ通常攝氏十三度四ニシテ其極度ハ攝氏十度四ニ迄降ルコトアリ而シテ平均氣温ノ經過ハ月初ニ於ケル攝氏二十六度ヨリ次第ニ低下シテ月末ニ至リ同二十一度ニ降ルヲ通例トス●濕度ハ全年平均七十九%ニシテ極メテ乾燥スルトキニハ少時間三十六%迄減少スルコトアリ●風速度ハ全年平均一秒時間三米五ニ過キサレトモ颯風ノ襲來ニ遇フトキハ猛烈ニシテ三十一米ニモ達スルコトアリ●降水量ハ一年中ノ最モ多キ月ニシテ全年合計百七十三耗(一坪面ニ付三石一斗八升四合ノ水量ニ當ル)ナレモ年ニ依テ大ニ差異アリ最モ多雨ナル年ニハ四百耗以上ニ達シ又一日中百八十耗以上ノ大雨ヲ降スコトアレトモ非常ニ寡雨ナル年ニハ全年ノ總量七十五耗ニモ達セザルコトアリ而シテ降水日數ハ平年十四日ナレトモ多キ年ニハ十九日ニ達シ少ナキ年ニテモ十日以下ナルコトハ稀ニシテ降水量ノ多キト共ニ其日數モ亦多シ●之ヲ要スルニ斯月ハ氣候ノ變化期ニシテ上旬ハ尙ホ夏季ノ状態ヲ存スレトモ中旬ノ央頃ヨリ著シク低溫トナリ下旬ニ至レハ既ニ秋氣ヲ生ス又斯月ハ熱帶颯風ノ襲來期ナルヲ以テ當地方ノ如キモ通例一二回ハ暴風雨ニ遭遇スルコトアリ天候及氣候ノ良否ハ主トシテ此颯風襲來ノ有無及其状態如何ニ依テ定マルモノトス

(十月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏十七度四ヲ示シ其最高ハ通常攝氏二十六度ニシテ極度トシテハ去二十六年ニ攝氏三十度四ニ達セシコトアレトモ斯ノ如キハ甚々稀ナリ又最低ハ通常攝氏七度一ニシテ極度ハ攝氏四度四ニ迄降ルコトアリ尙ホ平均氣温ノ經過ハ上旬ニ於ケル攝氏十九度ヨリ漸次遞減シテ下旬ノ終ニ至リ攝氏十五度ニ降ルヲ通例トス●濕度ハ全月平均七十七%ニシテ極メテ乾燥スルトキニハ少時間三十六%迄減濕スルコトアリ●風速度ハ前月ヨリ稍増加シテ全月平均一秒間四米ヲ示シ其最強速度ハ既往十四年間ニ只一回三十米颶風ニ達シタルコトアレトモ斯ノ如キハ極メテ稀ニシテ通常ハ強キモ二十米烈風ノ中程ニ止マルモノトス●降水量ハ全月合計百十八耗三(一坪面ニ付二石一斗六升七合ノ水量ニ當ル)ナレトモ年ニ依テ甚シキ差違ヲ生シ非常ニ多雨ナリシ去二十六年ノ如キハ三百耗ヲ超ヘ又一日間ニ八十耗ノ大量ヲ降セシコトアレトモ之ニ反シテ最モ寡雨ナル年ニハ全月ノ總量六十耗ニモ達セサルコトアリテ暴風雨襲來スル時ノ外ハ概シテ大雨稀ナリ而シテ降水日數ハ平年十一日ナレモ多キ年ニハ十六日ニ達シ少ナキ年ニハ七日ニ止マルコトアリ●之ヲ要スルニ斯月ノ氣候ハ降雨モ減少シ五月ト共ニ中温ニ位シテ一年中ノ好時候ナレトモ晝夜寒暖ノ差違最モ顯著ナル時期ニシテ又未タ全

ク暴風雨ノ季節ヲ脱セス

(十一月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏十二度三ヲ示シ其最高ハ通常攝氏二十一度四ニシテ極度トシテハ去三十年ニ攝氏二十五度三ニ達セシコトアレモ斯ノ如キハ甚々稀ナリ又最低ハ通常攝氏二度一ニシテ極度ハ攝氏零度四ニ迄降ルコトアリ尙平均氣温ノ經過ハ月初ニ於ケル攝氏約十五度ヨリ漸次遞減シテ月末ニ至リ同十度迄ニ降ルヲ通例トス●濕度ハ全月平均七十四%ニシテ極メテ乾燥スルトキニハ少時間三十八%迄減濕スルコトアリ●風速度ハ次第ニ増加シテ全月平均一秒間五米四ヲ示シ其最強速度ハ去三十四年ニ西ノ方向ニテ三十四米一ニ達セシモノト四十二年ニ西ノ方向ニテ三十一米二ニ達セシ颶風ニ回アリタレモ斯ノ如キハ稀ニシテ通常ハ強キモ二十七米烈風ノ極度ニ止マルモノトス●降水量ハ前月ヨリ大ニ減少シテ其半ニモ達セス即チ全月合計五十四耗九(一坪面ニ付一石六合ノ水量ニ當ル)ニ過キサレモ稀ニハ三十一年ノ如ク百六十耗ニ及フコトアリ又最モ寡雨ナル年ニハ全月ノ總量僅ニ二十耗ニモ達セサルコトアリ而シテ降水日數ハ平年十日ニ及ブヲ常トス●之ヲ要スルニ斯月ハ晩秋ヨリ初冬ニ移ル季節ニシテ一年中ニ於ケル雲量ノ最モ少ナキ時期ナレハ氣候概シ晴冷ニ經過スルコト多キヲ常トシ未ダ寒威嚴烈

ナラサレ下旬ニ至レハ稍冬季性ノ天氣ヲ現ハシ北西ノ寒風吹起ルヘキ状態ニ變スルヲ通例トス

(十二月ノ氣候) 氣温ハ全月平均攝氏七度八ヲ示シ其最高ハ通常攝氏十六度ニシテ極度ニ至ルモ攝氏十八度七ヲ超ヘス又最低ハ通常攝氏氷點下一度四ニシテ極度ハ攝氏氷點下三度ニ降ルコトアリ尙平均氣温ノ經過ハ月初ニ於ケル攝氏十度ヨリ漸次遞減シテ月末ニ至リ同六度迄ニ降ルヲ通例トス ●濕度ハ次第ニ減少シテ全月平均七十%ヲ示シ一年中ニ於ケル第二位ノ寡濕時期ニ属シ極メテ乾燥スルトキハ少時間三十四%迄減濕スルコトアリ ●風速度ハ大ニ増加シテ全月平均一秒間七米四ヲ示シ其最速速度ハ一秒間三十三米五(颶風)ニ達セシコトアリ抑モ當地ニ於ケル平年十二月ノ氣候ハ所謂初冬ノ季節ニ属シ一年中ニ於ケル北西風ノ最モ頻繁ニ吹起リ且ツ最モ烈シキ時期ニシテ全月暴風日數二十日同時數二百三十八時間ニ及フヲ通常トス ●降水量ハ全月合計四十四耗(一坪面ニ付八斗一升三合ノ水量ニ當ル)ニ過キサレ稀ニハ去三十八年ノ如ク八十耗以上ニ及ブコトアリ又最モ寡雨ナル年ニハ四十年ノ如ク全月ノ總量七耗五ニ過キサレコトアリ而シテ降水日數ハ略前月同様十日ニ及フヲ常トシ其中ニハ雪被モ加ハレヒ斯ハ多ク寒風ノ際ニ降リテ

平地ニ積ムカ如キハ稀ニ見ル所ナリ ●之ヲ要スルニ期月ノ氣候ハ全ク冬季性ノ本能ヲ呈シ降水量ハ漸次減少シテ大氣乾燥シ雲散シテ晴天ヲ見ルノ場合多ケレヒ寒風ノ盛ナル時期ナルヲ以テ氣温ノ示度ニ比スレハ皮膚ニ感スル處ノ寒氣ハ割合ニ劇烈ナリトス尙ホ氣象要素ノ一年中變化ノ状態ヲ知ラントスレハ左ノ半旬期氣象表ニ就テ見ルヘシ

自明治二十六年至明治四十一年十六ヶ年平均 半旬期多度津氣象表

月	半旬期	氣温(攝氏)	水蒸氣張力(托)	濕度(百分率)	風速度(秒時米)	雨量(十分率)	日照時數(時)	降水量(托)
一月	白一日	七、六	四、八	六、八	八、〇	五、四	三、三	五、三
	六日	七、六	五、一	七、九	六、七	五、六	三、三	四、五
	十一日	七、五	五、一	七、六	六、〇	五、七	三、一	六、一
	十六日	七、五	五、一	七、〇	七、一	五、三	三、八	六、三
	二十一日	七、六	五、二	七、七	七、一	五、五	三、六	一〇、〇
二月	二十六日	七、六	五、二	七、七	五、八	六、〇	三、六	八、五
	三十一日	七、六	五、三	七、七	六、六	六、一	三、九	八、九
	五日	七、五	五、三	七、六	七、三	五、五	三、六	四、三
	十日	七、五	五、三	七、六	八、〇	五、五	三、五	五、三
	十五日	七、五	五、三	七、六	五、九	六、一	三、七	七、〇
二十日	七、五	五、三	七、六	五、七	五、九	三、九	七、六	

月	三月			四月			五月			月	
	日	期	氣	日	期	氣	日	期	氣	氣	
二	二十五日	一	廿五,四	二	二十五日	一	廿五,四	三	二十五日	一	廿五,四
七	六日	六	廿五,四	七	六日	六	廿五,四	八	六日	六	廿五,四
十二	十一日	十五	廿五,四	十三	十一日	十五	廿五,四	十七	十一日	十五	廿五,四
十七	十六日	二十	廿五,四	二十	十六日	二十	廿五,四	二十五	十六日	二十	廿五,四
二十二	二十一日	二十五	廿五,四	二十五	二十一日	二十五	廿五,四	三十一	二十一日	二十五	廿五,四
二十九	二十九日	三十一	廿五,四	三十一	二十九日	三十一	廿五,四	三十一	二十九日	三十一	廿五,四
二十九	二十九日	三十一	廿五,四	三十一	二十九日	三十一	廿五,四	三十一	二十九日	三十一	廿五,四

月	六月			七月			八月			月	
	日	期	氣	日	期	氣	日	期	氣	氣	
五	十五日	十九	廿五,四	六	十五日	十九	廿五,四	七	十五日	十九	廿五,四
十	二十日	二十四	廿五,四	十一	二十日	二十四	廿五,四	十二	二十日	二十四	廿五,四
十五	二十五日	二十九	廿五,四	十六	二十五日	二十九	廿五,四	十七	二十五日	二十九	廿五,四
二十	三十日	三十一	廿五,四	二十	三十日	三十一	廿五,四	二十一	三十日	三十一	廿五,四
二十五	三十一日	三十一	廿五,四	二十五	三十一日	三十一	廿五,四	二十六	三十一日	三十一	廿五,四
三十	三十一日	三十一	廿五,四	三十	三十一日	三十一	廿五,四	三十一	三十一日	三十一	廿五,四

月	牛	旬	期	氣壓 (托)	氣溫 (攝氏)	水蒸氣 張力 (托)	濕度 (百分率)	風速 度 (秒時米)	雲 量 (十分率)	日照 時數 (時)	降水 量 (托)
十月	二十三日	二十七日	七	七六、三	二、三	一五、三	八〇、六	三、二	七、五	三、九	七、七
	二十八日	二日	七	七五、八	三、〇	一五、七	七、九	三、七	六、七	三、〇	六、七
	三十一日	七日	七	七五、六	三、一	一五、五	七、四	三、四	六、七	三、〇	六、七
十一月	八日	十二日	七	七五、五	二、八	一五、二	七、三	三、一	六、七	三、〇	六、七
	十三日	十七日	七	七五、八	二、七	一五、〇	七、二	三、〇	六、七	三、〇	六、七
	十八日	二十二日	七	七五、八	二、七	一五、〇	七、二	三、〇	六、七	三、〇	六、七
十二月	二十三日	二十七日	七	七五、二	二、六	一四、七	七、一	二、九	六、七	三、〇	六、七
	二十八日	二日	七	七四、八	二、五	一四、三	七、〇	二、八	六、七	三、〇	六、七
	三十一日	七日	七	七四、八	二、五	一四、三	七、〇	二、八	六、七	三、〇	六、七

地震

讃岐地方ニ感スル所ノ地震ハ一ケ年平均二十回ニシテ其場合ヲ大別スレハ大約左ノ如シ

- 第一、讃岐附近ヲ限リタル局部震動及讃岐ヲ主震部トシタル場合
- 第二、近接地ニ發シタル地震ノ餘波及近接地ト共ニ主震部トナリタル場合
- 第三、遠距離ニ發シタル地震ノ餘波ヲ傳フル場合

如斯次第ナルカ當所創業以來當地ニ於ケル顯著ナル地震ノ内震力強震ニ達シタルモノ五回アリ之ヲ前各項ニ配當スレハ第一ニ相當シタルモノ二回ニシテ第二ニ相當シタルモノ三回ナリ而シテ第二ニ相當シタルモノ、内其震原地ハ一ハ大和紀伊ニ亘リテ發シ他ノ一ハ内海ノ周防伊豫ノ間ニ於テ發セリ但シ此五回ノ強震ノ内驗測表明治四十年第七號ニ載スルモノハ最モ顯著ナリシモ幸ニ被害ヲ被ルニ至ラザリキ

明治四十年第七號
驗測表第ス

又古來讃岐ニ於ケル大震ノ狀況ハ詳カナラサレモ史上ニ著ハレタルモノハ天文元年正月二十日ノ強震、天正十三年十一月二十九日ノ大地震、慶長十七年十月二十五日ノ強震、寛永四年十月四日ノ大地震、安政元年十一月五日ノ大地震等ニシテ此内天文

四九六
元年ト慶長十七年ノ強震ハ蓋シ前項ノ第一ニ相當スル最モ顯著ナルモノニテアリ
シナランカ又寶永四年ノ地震ハ古來我國ニ於ケル最大ノ地震安政元年ノ地震ハ近
年ノ大地震ニシテ共ニ南海道及ヒ東海道ノ海底ヨリ發シ其震域頗ル廣大ニ亘リタ
ルモノナリ

9750

23

45381



明治四十三年三月二十三日印刷
明治四十三年三月二十七日發行

(非・賣品)

香 川 縣

印刷者 田村市太郎

香川縣高松市古馬場町四番地

印刷所 田村活版所

香川縣高松市古馬場町四番地



